

教職基礎				【単位数】	2単位
授業コード	16000	科目ナンバリング	510Z0-1000-x2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	小橋 雅彦				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
教師としての在り方・生き方を学ぶための教職への志向と一体感の形成に資するための科目である。教職の基礎に関する講義を中心とするが、演習も行う。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	将来ぜひ教師になりたいという使命感を養う。				
2	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容について身に付け、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。				
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	講義への取り組み度 20%				2/3
2	レポート 10%				1/2
3	期末試験 70%				1/2
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
公立高等学校、国立大附属中・高等学校において学校教育に携わっていた経験から、中等教育における諸課題を具体的に把握しており、教師としての資質・能力とは何かを中心に教職の意義と教師の育つ道筋を考察させることを通して、教職意識の涵養を促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職基礎ガイダンス（今後3年半にわたる教職履修の流れと履修内容を包括的に理解する） 2. 教育論と教師論 3. 「教師という職業の意味を見つめ直す」（中学校教諭による特別講義） 4. 教育の目的と教師の職務 5. 教育目標と教育課程 6. 学習指導と教育の方法 7. 「教職を目指す女子学生の皆さんへ」（本学教職相談員・元中学校長による特別講義） 8. 教員の服務 9. 教員の研修と勤務条件等 10. 開かれた学校づくりと保護者との連携 11. 学校における安全管理と安全教育 12. 生活指導と学級経営 13. 学校内外の専門機関等との連携 14. 教師と教育委員会 15. 望まれる教師の資質と能力（組織・チームとしての同僚性と連携意識の涵養） 					

定期試験 期末試験
試験のフィードバックの方法 後日解答を掲示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 授業では毎回、講義内容のレジュメ以外に参考資料を配付するので、自ら教職を目指す学生として自主的な学修に取り組むこと。
必携書（教科書販売）
必携書（教科書販売以外） <必携書> プリント等を配付する。 <参考書等> 曾余田浩史・岡東壽隆（編著）『新・ティーチング・プロフェッション』（明治図書）
オフィスアワー 質問は随時受け付ける。
連絡先 mkobashi@m.ndsu.ac.jp
留意事項 学校教育に関する新聞記事・雑誌等に目を通しておくなど、積極的に授業参加する姿勢を望む。

教育原理				【単位数】	2単位
授業コード	16010	科目ナンバリング	510Z0-2000-x2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	小林 修典				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
人間生活の向上・発展を目指した教育の本質と目的とを考察する。青少年を取り巻く環境の変化の激しい今日、これまでの教育の営みについて理解を深めながら、教育の普遍的な価値観とは何かを問うことは重要である。また、家庭、学校、社会の教育とのかかわりに注目しつつ、現代の日本の青少年の教育には何が求められているかを考察する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	教育に関する理念や、教育の歴史および思想についての理解を深めることにより、さまざまな教育の問題を考えることができる力を養う。				
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	小レポート(2回)……30%				1
2	期末レポート……20%				1
3	試験 50%				1
4	以上の割合で評価を行う。				
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
① オリエンテーション ② 青少年の成長と教育 ③ 青年期の課題 ④ 変容の時代の教育 ⑤ 教育の理念-本質と目的 ⑥ 教育の歴史的展開 西洋(1) ⑦ 教育の歴史的展開 西洋(2)・アジア ⑧ 教育の歴史的展開 日本(1) ⑨ 教育の歴史的展開 日本(2) ⑩ 現代の教育問題 ⑪ 家庭での社会化と教育 ⑫ 学校教育(1) 学校という社会 ⑬ 学校教育(2) 学習観 ⑭ グローバル社会の教育 ⑮ まとめ 教育の課題					

<p>定期試験 定期試験期間に試験を行う。 期末レポートを定期試験時に提出する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 試験終了後に、解答例を示す。 期末レポートは、レポート提出後に、講評する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ・毎回の授業に、教科書の指定された箇所を読み、理解したうえで出席する。（1時間） ・復習として、講義内容について理解を深める。（1時間）</p>
<p>必携書（教科書販売） <必携書> 『教育史入門』 森山輝紀・小玉重夫、NHK出版 『よくわかる教育原理』 汐見稔幸ほか、ミネルヴァ書房</p>
<p>必携書（教科書販売以外） なし。</p>
<p>オフィスアワー オフィスアワーは授業中に指示する。</p>
<p>連絡先 shusuke@post.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 レポートは授業内容を理解したうえで自らの考えをまとめるものであるので、毎回、授業に真剣に臨むとともに、自発的な授業外学習により発展的な考察を行うことが求められる。</p>

教育心理学				【単位数】	2単位
授業コード	16020	科目ナンバリング	510Z0-2000-x2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	湯澤 美紀				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
教育心理学のねらいは、教育の対象をより深く理解し、効果的な教育活動を行うために必要な心理学的知識を習得することにある。この授業では、教育心理学の基本領域である学習、動機づけ、発達、人格、評価、特別支援教育に関連するテーマを取りあげる。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	教育活動における心理学の果たす役割を理解するとともに、教育心理学の基礎的知識を身につけ、実践においてどのように活用するかといった点について、考察を深めることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	課題レポート(40%)			1	
2	最終レポート課題(60%)			1	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
教育現場における指導・助言を行う実務経験(岡山県専門家チーム等)を通して、現在の学校教育における今日的な課題と解決の方法に関する資料を授業内において提示する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
講義の主な内容は以下のとおりである。					
第1回：教育と心理学（心理学とは） 第2回：発達Ⅰ（概論：発達の概念と心身の発達について） 第3回：発達Ⅱ（ピアジェ：乳幼児期から青年期にいたる認知能力の発達に焦点を当てる） 第4回：発達Ⅲ（ピアジェ、青年期：青年期における心的発達・社会的発達を概観する） 第5回：発達Ⅳ（青年期：自己受容、自我同一性に焦点を当てる） 第6回：学習と記憶Ⅰ（理論：学習と記憶の基礎的知識） 第7回：学習と記憶Ⅱ（実践：種々の学習形態の特徴を概観する） 第8回：動機づけⅠ（理論：動機に関する基礎的知識） 第9回：動機づけⅡ（やる気と意欲：動機づけを促進・抑制する要因について） 第10回：動機づけⅢ（実践：教育場面における個人及び集団の動機づけをグループで考える） 第11回：教育評価Ⅰ（意義・目的：評価の歴史と必要性について） 第12回：教育評価Ⅱ（評価法：種々の評価法の特徴について） 第13回：人格Ⅰ（理論：人格理論の基礎的知識） 第14回：人格Ⅱ（形成：人格形成に影響する要因） 第15回：発達障害と特別支援（神経発達障害の基礎的知識）					

定期試験 最終レポート課題
試験のフィードバックの方法 15 週目の授業で試験の解説を行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習）授業の理解を支える深めるために、推薦図書一覧を、授業初回時に配布する。授業前までに、授業に関連する図書を読み進めたうえで参加してほしい（毎回1時間）。 （復習）授業に際し、講述した内容を元に「ワークシート」を作成する。授業後それを持ち帰り、授業中に紹介した資料などを参照してより完成度の高いものに仕上げること。また、第1回～5回、第6回～10回において各1回、授業に関連するテーマを各自で焦点化し、主体的に考察を深め、レポートとしてまとめる（各レポート5時間）。レポート作成には、関連領域の図書の精読が必須である（1冊につき5時間）。余裕をもって臨んでほしい。
必携書（教科書販売） 新・教職課程演習 教育心理学, 2021, 協同出版
必携書（教科書販売以外） <必携書> 窓ぎわのトットちゃん（黒柳徹子著、講談社） <参考書等> ワーキングメモリと特別な支援（湯澤美紀他編著、北大路書房） ワーキングメモリと英語入門（湯澤美紀他編著、北大路書房） 書房
オフィスアワー オフィスアワー 水曜日 3時限
連絡先 yuzawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項 1. 課題提出や連絡にはmanabaを使用します。質問等は授業中、manabaの掲示板あるいは電子メールで随時受け付けます。

発達心理学				単位数	2単位
授業コード	16030	科目ナンバリング	510Z0-2000-x2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	湯澤 美紀				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
人間の健やかな成長・発達を生命の誕生から老年期にいたるまでの長いスパンで紐解いていく。子の育ち、また、親の育ちを冒頭で述べ、親子の絆の在り方について考えた後、幼少期の人の成長を言語・社会性・自己意識・遊びの観点から考察する。その後、成長に伴う発達課題を概観していきながら、人がより良く生きるための成長の姿を考える。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	授業を通して、心の発達のメカニズムを多面的に理解していきながら、学生は、自らの成長のプロセスと照らし合わせながらこれまでの人生を振り返るとともに、自らのこれからの育ちを見通しつつ、明日への成長に繋がるための実際的な学びができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	課題レポート(40%)			1	
2	最終レポート課題(60%)			1	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
保育・教育現場における指導・助言を行う実務経験を通して(岡山県専門家チーム等)、現在の保育・学校教育における今日的な課題と解決の方法に関する資料を授業内において提示する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回: 人の育ちについて考える 第2回: 生命の誕生 第3回: 赤ちゃんから見た世界 第4回: 親としての育ち 第5回: コミュニケーションと人間関係の発達 第6回: 言語と遊びの発達 第7回: 自己の発見 第8回: 仲間の中での育ち 第9回: 発達と教育 第10回: 思春期を生きる 第11回: 職業選択 第12回: 関わりの中で成熟する 第13回: 中年期のアイデンティティ 第14回: ライフストーリー(人生の振り返り) 第15回: 人の個性をどのように理解し、そして、ともに手と手を取りあうか					

定期試験 最終レポート課題
試験のフィードバックの方法 15 週目の授業で試験の解説を行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習）授業の理解を支える深めるために、推薦図書一覧を、授業初回時に配布する。授業前までに、授業に関連する図書を読み進めたうえで参加してほしい（毎回1時間）。 （復習）授業に際し、講述した内容を元に「ワークシート」を作成する。授業後それを持ち帰り、授業中に紹介した資料などを参照してより完成度の高いものに仕上げること。また、第1回～5回、第6回～10回において各1回、授業に関連するテーマを各自で焦点化し、主体的に考察を深め、レポートとしてまとめる（各レポート5時間）。レポート作成には、関連領域の図書の精読が必須である（1冊につき5時間）。余裕をもって臨んでほしい。
必携書（教科書販売） ＜必携書＞ わらべうたと心理学の出会い, 2021, 987-4-7608-3907, 湯澤美紀, 金子書房
必携書（教科書販売以外） ＜参考書等＞ 教師教育講座 第3巻 子どもの発達と教育（湯澤正通編著、協同出版） 問いからはじめる発達心理学-生涯にわたる育ちの科学（坂上裕子他編著、有斐閣） やさしく学ぶ発達心理学-出会いと別れの心理学（浜崎隆司・田村 隆宏編著、ナカニシヤ出版）
オフィスアワー オフィスアワー 水曜日 3時限
連絡先 yuzawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項 1. 課題提出や連絡にはmanabaを使用します。質問等は授業中、manabaの掲示板あるいは電子メールで随時受け付けます。

学校経営論				【単位数】	2単位
授業コード	16040	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	伊藤 豊美				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
新しい時代の学校経営の基本について研究するとともに、その現代的意義や課題について考える。また、討論等も取り入れながら、学校経営を取り巻く諸問題について多角的に捉えて解決への道筋を探る。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	学校を組織として機能させるための基本的な法令の知識並びに学校を取り巻く地域及び児童・生徒・教師の実態等を理解し、実践力を身につけることができる。				
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	講義への取り組み度 20%				1/2/3
2	レポート 10%				1
3	期末試験 70%				1
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
教育委員会において、管理主事の実務に携わっていた経験から、組織としての学校経営の基礎基本について具体的・多角的に取り上げ、学生たちに基本的な学校に関する法令並びに地域・児童生徒・教師の実態を考察させることを通して、学校現場における問題解決プロセスの実践的構築を促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 日本の教育制度の現状並びに諸外国の教育事情と教育改革の動向 教育行政の組織と教育委員会 学校の活性化を目指す教育目標とPDCAの意義 PDCAと教育課程編成の実際 個性の伸長を図る教科指導と特別活動 生徒指導の諸問題 体罰の禁止と事故防止 教員の任用・服務・研修 学校経営の組織構成と運営（地域に開かれた学校づくりを目指して） 社会教育と関係諸団体・機関との連携・地域社会との協働 学校における安全管理と安全教育 討論：いじめ問題と学校運営（チーム学校としていじめ問題に取り組む） 討論：各教科の指導上の課題と今後の展望 「学校運営と人権教育」（岡山市人権啓発センター職員・元小学校長による特別講義） 「人権教育の実際」（岡山市人権啓発センター職員・元小学校長による特別講義） 					

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
後日、解答を掲示。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業の始めに毎回、学生による3分間スピーチを実施する。テーマは原則として前時に提示するので、自分の考えを3分以内でまとめておく準備が必要となる。 また、授業では毎回、講義内容のレジメ以外に参考資料を配付するので、自ら教職を目指す学生として自主的な学修に取り組むこと。これらのことに取り組むためには毎時間、2時間程度が必要。
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書（教科書販売以外）
<必携書> プリント等を配付する。 <参考書> 岡東 壽隆『学校経営論 重要用語300の基礎知識』（明治図書）
オフィスアワー
質問等は随時受け付ける。
連絡先
itoh@post.ndsu.ac.jp
留意事項
介護等の体験に出る学年であり、来年度の教育実習に備え、学校という組織及び教職員の責務などを自覚して積極的に授業参加する。

特別支援教育基礎論				単位数	2単位
授業コード	16045	科目ナンバリング	510Z0-1000-x2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	青山 新吾				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の有する困難性、障害特性やその対応について、及び特別支援の視点を取り入れた保育、教育の現状や基礎的事項からインクルーシブ教育システムの今後について解説する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、そのための指導・支援を行うための基礎的知識を扱う。主たる障害についての特性を理解して自分のことばで表現できる。			知識・技能/主体性	
2	主たる障害についての特性を理解し、それらを踏まえての実際的な指導についての基礎的事項を自分のことばで表現できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	特別支援の視点を取り入れた教育についての基礎的事項を自分のことばで表現できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	定期試験	70%		1/2/3	
2	レポート(学期中に提出)	30%		1/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
小学校教員時代に経験した実践及び、現在指導・助言の立場でかかわっている幼稚園、小・中・高等学校や特別支援学校における具体的なエピソードや最新の知見を講義中に積極的に紹介し、特別支援教育について具体的なイメージを伴って学習を進められるように展開する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回:「障害」とは何か:「障害」の捉え方 第2回:特別支援教育とは何か:特別支援教育コーディネーターを軸とする支援体制の構築 第3回:特別な支援を必要とする子どもとは(1)自閉症スペクトラムのある子どもと教育 第4回:特別な支援を必要とする子どもとは(2)L.D.、ADHDのある子どもと教育 第5回:特別な支援を必要とする子どもとは(3)言語障害、場面緘黙のある子どもと教育 第6回:特別な支援を必要とする子どもとは(4)知的障害のある子どもと教育 第7回:特別な支援を必要とする子どもとは(5)視覚障害、聴覚障害のある子どもと教育 第8回:特別な支援を必要とする子どもとは(6)病弱・身体虚弱、肢体不自由のある子どもと教育 第9回:特別支援の視点を取り入れた教育(1)小学校における取組 第10回:特別支援の視点を取り入れた教育(2)中学校、高等学校等における取組 第11回:特別支援の視点を取り入れた教育(3)外国語の指導と特別支援教育 第12回:特別支援の視点を取り入れた教育(4)特別支援の視点と生徒指導 第13回:キャリア教育と特別支援教育:関係機関との連携による将来につなげるための指導の実際 第14回:特別支援教育における家族との協働:保護者のお話から学ぶ 第15回:インクルーシブ教育システムと共生社会の構築:特別支援教育の今後とICT活用					

定期試験 第16回目に定期試験を実施する。
試験のフィードバックの方法 必要に応じて、試験のポイント等についてmanabaで情報を提供する。また、個人的な質問等にはメール等で情報を提供する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎回の講義で、その日の講義内容に関連した参考文献や参考URLを紹介する。また、manabaを活用し、講義内容に関連する情報や、更に発展的な内容についても適宜発信する。これらを参考にしながら、講義内容への関心を高め、理解や思索を進められるよう、講義外での学習に取り組んで欲しい。その学習に費やす時間としては概ね30～60分を想定している。
必携書（教科書販売） <必携書> 『特別支援教育』， 廣瀬由美子・石塚謙二， ミネルヴァ書房
必携書（教科書販売以外） <参考書> 『インクルーシブ教育ってどんな教育？』 青山新吾他編著 学事出版 『特別支援教育すきまスキル 高等学校編』 青山新吾・堀裕嗣編著 明治図書
オフィスアワー 質問、相談は、Eメール等で随時受け付ける。
連絡先 saoyama@m.ndsu.ac.jp
留意事項

教育課程論				単位数	2単位
授業コード	16050	科目ナンバリング	510Z0-2000-x2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	河合 保生				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
学習指導要領・総則編を基に、小学校・中学校・高等学校における教育課程の意義及び編成の方法を理解し、教育課程を理論的・実践的な面から検討、考察する。また、学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義と評価の考え方を理解する。教育技術としてのICT活用法と留意事項、及び効果的な教育活動の展開について研究する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. 学習指導要領を基にして編成する教育課程のもつ意義が理解できる。				
2	2. 理論的・実践的な資質を培うことで、学校種、地域や生徒の実態に応じた教育課程を編成することができる。				
3	3. 教科や学年を横断するカリキュラムの在り方を理解し、カリキュラム・マネジメントの手法が獲得できる。				
4	4. ICTの活用方法と利用上の課題を理解した上で、生徒に指導することができる。				
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	・ 授業への取り組み度 20% (到達目標1, 2, 3, 4)			1/2/3/4	
2	・ 課題レポート 20% (到達目標1, 2, 3, 4)			1/4	
3	・ 定期試験 60%			1/2/3/4	
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
高等学校での教務主任や教頭職の経験を通して獲得した知見や、教育課程編成手法を活用した指導を学校現場に即して行う。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 オリエンテーション、教育課程の意義 2 教育課程に関する関係法規 3 学習指導要領改訂の歴史(戦後の試案から経済成長期まで) 4 学習指導要領改訂の歴史(ゆとり教育から平成20年まで) 5 新学習指導要領の特徴(小学校・中学校) 6 新学習指導要領の特徴(高等学校) 7 教育課程の役割と機能 8 教育課程編成の基本原理 9 教育課程編成の実際(小学校・中学校) 10 教育課程編成の実際(高等学校) 11 教育課程編成上の諸問題と指導計画の検討 12 カリキュラム・マネジメントの意義と評価 13 ICT教育の実際と課題 14 教育課程の評価と改善、及び主体的、対話的で深い学びの在り方 15 特別活動の内容と指導法					

<p>定期試験</p> <p>16週目に筆記試験を行う。内容は学習指導要領総則編を基にして獲得した知識・技能など総合的なもの。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p> <p>試験終了後にmanaba folioに解説又は評価基準を掲示する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</p> <p>毎回の授業のはじめに、新聞などの教育記事を読み、各自のコメントを用紙に記入するとともに、2名程度壇上から発表する機会を持ちます。普段から教育問題に関心を持ち、意見が言えるような取り組みを日常的にしていきたい。また、授業時間外に教科書や参考書等を学習内容に即して予習・復習を行い、十分に読み解くなどの学習を進めて欲しい（予習・復習で3時間）。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『中学校学習指導要領解説（平成29年告示）-総則編-』，平成30年3月発行，ISBN978-4-8278-1559-7，文部科学省，東山書房 ・『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）-総則編-』，平成31年1月発行，ISBN978-4-491-03639-7，文部科学省，東洋館出版社
<p>必携書（教科書販売以外）</p> <p><参考書等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・『中学校学習指導要領（平成29年告示）』，令和2年1月発行，ISBN978-4-8278-1579-5，文部科学省，東山書房 ・『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』，平成31年2月発行，ISBN978-4-8278-1567-2，文部科学省，東山書房 ・『小学校学習指導要領（平成29年告示）』，平成30年2月発行，ISBN978-4-491-03460-7，文部科学省，東洋館出版社 ・『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）-総則編-』，平成30年2月発行，ISBN978-4-491-03461-4，文部科学省，東洋館出版社 <p>※以上は，文部科学省ホームページからPDF形式でダウンロードできる。</p> <p>※毎回の授業でプリントを配付する。その他は，授業時に提示する。</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>オフィスアワー水曜日3～4時限 質問は随時、電子メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先</p> <p>s3003@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <p>総則を中心とした学習指導要領解説を熟読し，毎回，自分なりの課題をもって授業に臨むなど，積極的な授業参加を期待します。なお，現代の教育動向や教育課題に関心を持つよう心がけること。</p>

教育課程論				単位数	2単位
授業コード	16055	科目ナンバリング	510Z0-2000-x2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	河合 保生				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
学習指導要領・総則編を基に、小学校・中学校・高等学校における教育課程の意義及び編成の方法を理解し、教育課程を理論的・実践的な面から検討、考察する。また、学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義と評価の考え方を理解する。教育技術としてのICT活用法と留意事項、及び効果的な教育活動の展開について研究する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. 学習指導要領を基にして編成する教育課程のもつ意義が理解できる。				
2	2. 理論的・実践的な資質を培うことで、学校種、地域や生徒の実態に応じた教育課程を編成することができる。				
3	3. 教科や学年を横断するカリキュラムの在り方を理解し、カリキュラム・マネジメントの手法が獲得できる。				
4	4. ICTの活用方法と利用上の課題を理解した上で、生徒に指導することができる。				
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	・ 授業への取り組み度 (各時間の振り返り) 20%			1/2/3/4	
2	・ 課題レポート 20%			1/4	
3	・ 定期試験 60%			1/2/3/4	
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
高等学校での教務主任や教頭職の経験を通して獲得した知見や教育課程編成手法を活用した指導を学校現場に即して行う。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 オリエンテーション、教育課程の意義 2 教育課程に関する関係法規 3 学習指導要領改訂の歴史 (戦後の試案から経済成長期まで) 4 学習指導要領改訂の歴史 (ゆとり教育から平成20年まで) 5 新学習指導要領の特徴 (小学校・中学校) 6 新学習指導要領の特徴 (高等学校) 7 教育課程の役割と機能 8 教育課程編成の基本原理 9 教育課程編成の実際 (小学校・中学校) 10 教育課程編成の実際 (高等学校) 11 教育課程編成上の諸問題と指導計画の検討 12 カリキュラム・マネジメントの意義と評価 13 ICT教育の実際と課題 14 教育課程の評価と改善、及び主体的、対話的で深い学びの在り方 15 教育課題の解決と教育課程					

<p>定期試験</p> <p>16週目に筆記試験を行う。内容は学習指導要領総則編を基にして獲得した知識・技能など総合的なもの。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p> <p>試験終了後にmanaba folioに解説又は評価基準を掲示する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</p> <p>毎回の授業のはじめに、新聞などの教育記事を読み、各自のコメントを用紙に記入するとともに、2名程度壇上から発表する機会を持ちます。普段から教育問題に関心を持ち、意見が言えるような取り組みを日常的にしていきたい。また、授業時間外に教科書や参考書等を学習内容に即して予習・復習を行い、十分に読み解くなどの学習を進めて欲しい（予習・復習で3時間）。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『中学校学習指導要領解説（平成29年告示）-総則編-』，平成30年3月発行，ISBN978-4-8278-1559-7，文部科学省，東山書房 ・『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）-総則編-』，平成31年1月発行，ISBN978-4-491-03639-7，文部科学省，東洋館出版社 <p>※文部科学省ホームページからPDF形式でダウンロードできるが、付録がないなど学習上不都合があるので、冊子を購入したい。</p>
<p>必携書（教科書販売以外）</p> <p><参考書等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・『中学校学習指導要領（平成29年告示）』，令和2年1月発行，ISBN978-4-8278-1579-5，文部科学省，東山書房 ・『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』，平成31年2月発行，ISBN978-4-8278-1567-2，文部科学省，東山書房 ・『小学校学習指導要領（平成29年告示）』，平成30年2月発行，ISBN978-4-491-03460-7，文部科学省，東洋館出版社 ・『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）-総則編-』，平成30年2月発行，ISBN978-4-491-03461-4，文部科学省，東洋館出版社 <p>※以上は、文部科学省ホームページからPDF形式でダウンロードできる。</p> <p>※毎回の授業でプリントを配付する。その他は、授業時に提示する。</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>オフィスアワー水曜日3～4時限 質問は随時、電子メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先</p> <p>s3003@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <p>総則を中心とした学習指導要領解説を熟読し、毎回、自分なりの課題をもって授業に臨むなど、積極的な授業参加を期待します。なお、現代の教育動向や教育課題に関心を持つよう心がけること。</p>

英語科指導法演習 I				単位数	2単位
授業コード	16060	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	小橋 雅彦				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>演習を通して英語科指導法に関する専門的な知識や方法・技術を習得する。 第6回から第13回の模擬授業・研究会の授業の流れは以下のとおりである。 ①学生による模擬授業 → ②観察班学生の発表 → ③生徒役学生の感想 → ④授業者の振り返り → ⑤担当教員による指導助言と学生たちによる授業改善</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	4年次において充実した教育実習ができるように、学校現場で指導できる実践力、応用力を身に付ける。				
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	講義への取り組み度	20%		1	
2	模擬授業実践力	40%		1	
3	期末試験	40%		1	
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
<p>公立高等学校、国立大附属中・高等学校において英語教育に携わっていた経験から、英語科教育における課題を実践面から具体的に把握しており、指導法の教授においては理論的なアプローチのみならず実践的なアプローチの面からも行うことができる。</p>					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語科指導法の実際（理論編） 2. 英語科指導法の実際（実践編） 3. 英語科指導案の作成（理論編） 4. 英語科指導案の作成（実践編） 5. 英語科指導案の作成（ICT等を活用した指導案作成） 6. 模擬授業・研究会（中学校1年） 7. 模擬授業・研究会（中学校2年） 8. 模擬授業・研究会（中学校3年） 9. 模擬授業・研究会（中学校・総括） 10. 模擬授業・研究会（高等学校1年） 11. 模擬授業・研究会（高等学校2年） 12. 模擬授業・研究会（高等学校3年） 13. 模擬授業・研究会（高等学校・総括） 14. 教育相談と教科教育 15. 教育実習に向けて 					

定期試験 期末テスト
試験のフィードバックの方法 後日、解答を掲示。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 模擬授業は、グループで計画・立案する。 グループで活動・準備を行うため、グループ構成員の日程を合わせたりするなどの困難が生じるであろうが、グループで取り組むことの意義を十分に考えて全員で協力して授業を創るよう努力してほしい。
必携書（教科書販売）
必携書（教科書販売以外） <必携書> 文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説-外国語活動・外国語編-』開隆堂 文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説-外国語編-』開隆堂 文部科学省（2019）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説-外国語編 英語編-』開隆堂 <参考書等> 小橋雅彦（2021）『若い英語教師のための教材研究入門』大学教育出版（英語科教育法Ⅰで購入済） 卯城祐司・榎葉みつ子（編著）（2021）『新・教職課程演習 第18巻 中等英語科教育』協同出版（英語科教育法Ⅱで購入済） ※その他プリント等を必要に応じて配付する。
オフィスアワー 質問は随時受け付ける。
連絡先 mkobashi@m.ndsu.ac.jp
留意事項 ※「学習指導要領解説」は常に手元におき、参照すること。 ※教育実習校で使用する予定のテキストを各自で購入のこと。

英語科指導法演習 I I				単位数	2単位
授業コード	16070	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	小橋 雅彦				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
本授業の概要					
現代までの主要な教授理論及び学習理論を理解することにより、中・高の生徒のコミュニケーション能力を養うための指導法を研究する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	主要な教授法及び指導法を理解し、中・高の生徒に対して適切な指導を行うことができる実践的な能力と資質を養う。				
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	講義への取り組み度	20%		1	
2	課題・レポート	10%		1	
3	期末試験	70%		1	
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
公立高等学校、国立大附属中・高等学校において英語教育に携わっていた経験から、英語科教育における課題を実践面から具体的に把握しており、指導法の教授においては理論的なアプローチのみならず実践的なアプローチの面からも行うことができる。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語指導の基礎・基本 2. 英語科教育目的論再考 3. 教材作成の理論 4. 英語学力の養成 5. 誤答分析：指導と評価の一体化 6. 英語教授法の輪郭：歴史の変遷 7. 外国語としての英語教育 8. 英語科教育に関する諸問題 9. 外国語授業原理 10. コミュニケーション重視の教授法 11. 視聴覚教具とICTの活用 12. 外国語指導助手との協同授業 13. 指導案の作成と評価の考え方 14. 「中・高等学校における英語科教育の実際」(岡山県教育委員会元指導主事による特別講義) 15. 教育実習に向けて 					

定期試験 期末テスト
試験のフィードバックの方法 後日、解答を掲示。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 演習（実践面）を行うにあたり、「英語科教育法Ⅰ・Ⅱ」で学んだ内容（理論面）との関連から指導法のあり方を考察する。特に、実践から理論への視点から、演習を通して明らかになった自己の課題の解決においては、実践面のみならず理論面における思考も重要である。実践と理論のバランスを取るという立場から自己の演習を振り返ること。
必携書（教科書販売）
必携書（教科書販売以外） <必携書> 文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説-外国語活動・外国語編-』開隆堂 文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説-外国語編-』開隆堂 文部科学省（2019）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説-外国語編 英語編-』開隆堂 <参考書等> 小橋雅彦（2021）『若い英語教師のための教材研究入門』大学教育出版（英語科教育法Ⅰで購入済） 卯城祐司・榎葉みつ子（編著）（2021）『新・教職課程演習 第18巻 中等英語科教育』協同出版（英語科教育法Ⅱで購入済） ※その他プリント等を必要に応じて配付する。
オフィスアワー 質問は随時受け付ける。
連絡先 mkobashi@m.ndsu.ac.jp
留意事項 ※「学習指導要領解説」は常に手元におき、参照すること。 ※教育実習校で使用する予定のテキストを各自で購入のこと。

国語科指導法演習 I				単位数	2単位
授業コード	16080	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	伊木 洋				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
本授業の概要					
本授業では、中学校及び高等学校学習指導要領国語科の目標及び内容を踏まえ、学習者を想定して、中学校・高等学校の教材を取り上げて学習指導案を作成し、模擬授業を実施することを通して、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う実践的な能力を身につける。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	中学校及び高等学校学習指導要領に示された国語科の目標、育成を目指す資質・能力、学習内容等を踏まえ、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施を通して、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う実践的な能力を身につける。				
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	単元構想力・実践的指導力 (30%)				1
2	提出課題・レポート (40%)				1
3	テスト (30%)				1
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
国語科教員として教育実践に携わっていた経験に基づいて、学習指導要領を踏まえて学習指導案を作成し、模擬授業を実施することを通して、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う実践的な方法を指導する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 学習指導要領における国語科の目標及び主な内容 2 中学校における国語教室の実際 3 高等学校における国語教室の実際 4 国語科における学習評価の実際 5 学校図書館、ICTを活用した学習指導の実際 6 指導計画の作成、内容の取り扱い、指導上の留意点、教材についての配慮事項、テスト(1) 7 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(1) ([知識及び技能] 言葉の特徴や使い方に関する事項) 8 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(2) ([知識及び技能] 情報の扱い方に関する事項) 9 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(3) ([知識及び技能] 我が国の言語文化に関する事項) 10 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(4) ([思考力、判断力、表現力等] 「話すこと・聞くこと」) 11 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(5) ([思考力、判断力、表現力等] 「書くこと」) 12 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(6) ([思考力、判断力、表現力等] 「読むこと」説明的文章) 13 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(7) ([思考力、判断力、表現力等] 「読むこと」文学的文章) 14 模擬授業全体を通じた振り返りによる授業改善の視点、テスト(2) 15 国語科教育における実践研究の動向					

定期試験 テスト、課題レポート・学習記録の提出
試験のフィードバックの方法 テスト、課題レポート・学習記録についてコメントする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、学習材の研究を十分に行ったうえで、目標達成にふさわしい言語活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成すること。（30時間） 模擬授業の実施に当たって、事前に学習指導案を提出し、事前指導を受けて学習指導案を練り直したうえで、当日の模擬授業に臨むこと。（15時間） 模擬授業事後レポート及び国語学習記録を作成し、学び得たことを蓄積すること。（15時間）
必携書（教科書販売） <必携書> 『新編 教えるということ』、1996年、ISBN4-480-08287-5、大村はま、ちくま学芸文庫
必携書（教科書販売以外） <必携書> 『中学校学習指導要領』、文部科学省 『高等学校学習指導要領』、文部科学省 『中学校学習指導要領解説国語編』、2018年、ISBN978-4-491-03470-6、文部科学省、東洋館出版社 『高等学校学習指導要領解説国語編』、2019年、ISBN978-4-491-03640-3、文部科学省、東洋館出版社 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料中学校国語』、2020年、ISBN978-4-491-04132-2、国立教育政策研究所教育課程研究センター、東洋館出版社 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料高等学校国語』、2021年、ISBN978-4-491-047003、国立教育政策研究所教育課程研究センター、東洋館出版社 中学校国語科用教科書及び高等学校国語科用教科書 <参考書等> 『新たな時代の学びを創る中学校高等学校国語科教育研究』、2019年、ISBN4-480-08146-1、全国大学国語教育学会編、東洋館出版社 『中学校国語科学習指導の創造』、2018年、ISBN978-4-86327-424-2、伊木洋、溪水社 『豊かな言語活動が拓く国語単元学習の創造VI中学校編』、2010年、ISBN978-4-491-02596-4、日本国語教育学会監修、東洋館出版社 『豊かな言語活動が拓く国語単元学習の創造VII高等学校編』、2010年、ISBN978-4-491-02597-1、日本国語教育学会監修、東洋館出版社 『大村はま国語教室 全15巻 別巻1』、大村はま、筑摩書房 『大村はま国語教室 全15巻別巻1 巻別内容総覧』、2013年、ISBN978-4-86327-226-2、橋本暢夫編、溪水社
オフィスアワー オフィスアワー：火曜日4限。随時メールで受け付ける。
連絡先 higi@post.ndsu.ac.jp
留意事項 教職課程履修生としてふさわしい在り方で受講すること。 学習指導案を十分練って、模擬授業に臨むこと。 毎時間の自己評価を記述し、提出すること。 課題への取り組みを充実させ、期限を厳守して提出すること。 学びのすべてを国語学習記録に整理し、提出すること。

国語科指導法演習 I I				単位数	2単位
授業コード	16090	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	伊木 洋				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
本授業の概要					
本授業では、中学校及び高等学校学習指導要領国語科の目標及び内容を踏まえ、中学校・高等学校の系統性を意識し、学習者を想定して、中学校・高等学校の教材を取り上げて学習指導案を作成し、模擬授業を実施することを通して、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う実践的な方法を学ぶ。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	中学校及び高等学校学習指導要領国語科の目標、育成を目指す資質・能力、学習内容等を踏まえ、中学校・高等学校の系統性を意識し、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施を通して、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う実践的な能力を身につける。				
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	単元構想力・実践的指導力 (30%)				1
2	提出課題・レポート (40%)				1
3	テスト (30%)				1
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
国語科教員として教育実践に携わっていた経験に基づいて、学習指導要領を踏まえて学習指導案を作成し、模擬授業を実施することを通して、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う実践的な方法を指導する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 学習指導要領における国語科の目標及び主な内容、学習評価、指導上の留意点 2 学校図書館、ICTを活用した主体的な学習指導の実際 3 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(1) (中学校 [知識及び技能] 言葉の特徴や使い方に関する事項) 4 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(2) (中学校 [知識及び技能] 情報の扱い方に関する事項) 5 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(3) (中学校 [知識及び技能] 我が国の言語文化に関する事項) 6 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(4) (中学校 [思考力、判断力、表現力等] 「話すこと・聞くこと」) 7 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(5) (中学校 [思考力、判断力、表現力等] 「書くこと」) 8 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(6) (中学校 [思考力、判断力、表現力等] 「読むこと」) 9 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(7) (高等学校 [知識及び技能] 言葉の特徴や使い方に関する事項) 10 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(8) (高等学校 [知識及び技能] 情報の扱い方に関する事項)、テスト(1) 11 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(9) (高等学校 [知識及び技能] 我が国の言語文化に関する事項) 12 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(10) (高等学校 [思考力、判断力、表現力等] 「話すこと・聞くこと」) 13 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(11) (高等学校 [思考力、判断力、表現力等] 「書くこと」) 14 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(12) (高等学校 [思考力、判断力、表現力等] 「読むこと」)、テスト(2) 15 模擬授業全体を通じた振り返りによる授業改善の視点、国語科教育における実践研究の動向					

定期試験 テスト、課題レポート・学習記録の提出
試験のフィードバックの方法 テスト、課題レポート・学習記録についてコメントする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、目標達成にふさわしい言語活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成すること。（30時間） 模擬授業の実施に当たって、事前に学習指導案を提出し、事前指導を受けて学習指導案を練り直したうえで、当日の模擬授業に臨むこと。（15時間） 模擬授業事後レポート及び国語学習記録を作成し、学び得たことを蓄積すること。（15時間）
必携書（教科書販売） <必携書> 『新編 教室をいきいきと 1』, 1994年, ISBN4-480-08146-1, 大村はま, ちくま学芸文庫
必携書（教科書販売以外） <必携書> 『中学校学習指導要領』, 文部科学省 『高等学校学習指導要領』, 文部科学省 『中学校学習指導要領解説国語編』, 2018年, ISBN978-4-491-03470-6, 文部科学省, 東洋館出版社 『高等学校学習指導要領解説国語編』, 2019年, ISBN978-4-491-03640-3, 文部科学省, 東洋館出版社 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料中学校国語』, 2020年, ISBN978-4-491-0413202, 国立教育政策研究所教育課程研究センター, 東洋館出版社 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料高等学校国語』, 2021年, ISBN978-4-491-047003, 国立教育政策研究所教育課程研究センター, 東洋館出版社 中学校国語科用教科書及び高等学校国語科用教科書 <参考書等> 『新たな時代の学びを創る中学校高等学校国語科教育研究』, 2019年, ISBN978-4-491-03767-7, 全国大学国語教育学会編, 東洋館出版社 『中学校国語科学習指導の創造』, 2018年, ISBN978-4-86327-424-2, 伊木洋, 溪水社 『豊かな言語活動が拓く国語単元学習の創造 VI中学校編』, 2010年, ISBN978-4-491-02596-4, 日本国語教育学会監修, 東洋館出版社 『豊かな言語活動が拓く国語単元学習の創造 VII高等学校編』, 2010年, ISBN978-4-491-02597-1, 日本国語教育学会監修, 東洋館出版社 『大村はま国語教室 全15巻 別巻1』, 大村はま, 筑摩書房 『大村はま国語教室 全15巻別巻1 巻別内容総覧』, 2013年, ISBN978-4-86327-226-2, 橋本暢夫編, 溪水社
オフィスアワー オフィスアワー：火曜日4限。随時メールで受け付ける。
連絡先 higi@post.ndsu.ac.jp
留意事項 教職課程履修生としてふさわしい在り方で受講すること。 学習指導案を十分練って、模擬授業に臨むこと。 模擬授業終了後は、自分の授業を分析し、事後レポートを作成すること。 毎時間の自己評価を記述し、提出すること。 課題への取り組みを充実させ、期限を厳守して提出すること。 学びのすべてを国語学習記録に整理し、提出すること。

社会科指導法演習 I				単位数	2単位
授業コード	16100	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	森 泰三				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
本授業の概要					
「社会・地歴科教育法Ⅰ・Ⅱ」及び「社会・公民科教育法Ⅰ・Ⅱ」で学んだ各教科教育の指導理論に基づき、具体的な授業場面を想定した実践的指導法を学ぶ。また、指導と一体化した様々な評価手法についても研究する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	中学校社会科及び高等学校地歴科・公民科の学習指導に関する専門的知識や技術を習得し、表現できる。				
2	模擬授業を通して中・高の生徒に対して適切な指導を行う基礎的な技能が獲得できる。				
3	指導と一体化に必要な評価の基礎的技法を習得し、表現できる。				
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	・ 授業への取り組み度 (30%)				1/2/3
2	・ 模擬授業実践力 (30%)				1/2/3
3	・ 課題レポート (40%)				1/2/3
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
中学校・高等学校での指導経験をj通して獲得した指導技術を活用した指導を行う。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 社会科及び地理歴史科・公民科における学習指導の特徴					
2 実習授業の準備と進め方(中学校社会科)					
3 実習授業の準備と進め方(高校地歴・公民科)					
4 学習指導と評価					
5 社会科、地理歴史科、公民科教育の実際					
6 教育機器を活用した学習指導					
7 ICTを活用した学習指導					
8 地域の施設や人材を活用した学習指導					
9 ディベートや発表形式による学習指導					
10 地域調査活動の実際					
11 調査活動の整理と発表					
12 模擬授業の実施と研究会(社会科地理的分野)					
13 模擬授業の実施と研究会(社会科歴史的分野)					
14 模擬授業の実施と研究会(社会科公民的分野)					
15 教育実習に向けての取り組みと総括					

定期試験 定期試験は実施しない。授業内に模擬授業やレポートを課す。
試験のフィードバックの方法 授業中に、課題レポートや模擬授業についてコメントする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 この授業の中心は、模擬授業である。予習として十分な時間をとった教材研究が必要で、実際に授業ができる学習指導案の作成が求められる。そのためには教科書を十分に読み込み分野別のノートを作成すること、パソコンを活用した教材作成などの準備することが不可欠である。指導案作成に当たっては、担当教員との念入りな打合せをすること。また、授業後は受講者相互で研究会を行い、実施した授業の振り返りをするとともに、授業改善のために学習指導案を修正すること。模擬授業実施者は指導案の作成及び教材研究に十分な時間（10時間程度）は必要であり、授業後の振り返りを元にした指導案の修正にも時間をかける必要がある（2時間程度）。生徒役の学生も事前に教科書等の予習を行い、授業時の質問など実際の教室での授業を想定しての対応を考えておくことが肝要である。授業後も自分が授業実践するときの改善点をまとめるなどの復習が求められる（予習・復習で3時間程度）。
必携書（教科書販売） 使用しない
必携書（教科書販売以外） <必携書> 中学校社会科教科書『社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の風土』加賀美雅弘ほか22名、帝国書院 中学校社会科教科書『新しい社会 歴史』坂上康俊、矢ヶ崎典隆、谷口将紀ほか108名、東京書籍 中学校社会科教科書『社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して』江口勇治ほか16名、帝国書院 中学校公民の教科書は、社会・公民科教育法Ⅱの授業でも使用予定 中学校社会科又は高等学校地理歴史科・公民科の教科書のうち、教育実習校で使用予定のもの。 <参考書等> ・『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）』（文部科学省） ・『高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）』（文部科学省） ・『中学校学習指導要領解説（平成29年告示）社会編』（平成30年3月、文部科学省） ・『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）地理歴史編』（平成30年、文部科学省） ・『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）公民編』（平成30年、文部科学省） ・『教育実習生のための学習指導案作成教本-社会地歴公民科-（改訂版）』、教育実習を考える会編、蒼丘書林 ・社会・地歴科教育法Ⅰ・Ⅱ、社会・公民科教育法Ⅰ・Ⅱで使用したテキストを継続使用する。その他は、授業中に指示する。
オフィスアワー 木曜日 5時限
連絡先 tmori@m.ndsu.ac.jp
留意事項 ・社会科指導法演習Ⅱと連動させて展開する。 ・模擬授業の実施にあたっては、教材研究を十分行い事前指導を受け、綿密な指導案を作成する。

社会科指導法演習 I I				【単位数	2単位
授業コード	16110	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	森 泰三				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
本授業の概要					
「社会・地歴科教育法 I・II」及び「社会・公民科教育法 I・II」で学んだ各教科教育の指導理論に基づき、実際の中学・高等学校使用の教材を用いて学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。模擬授業後に研究会を行い、授業実践力を高める。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	社会科・地歴科・公民科の各分野の教材研究をもとに学習指導案を作成し、模擬授業ができるようになる。				
2	授業観察及び授業実践を通じて、専門的知識や教科指導の技術を習得、表現するとともに、教師としての使命感を体得する。				
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	・授業への取り組み度 (30%)			1/2	
2	・模擬授業実践力 (30%)			1/2	
3	・課題レポート (40%)			1/2	
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
中学校・高等学校での指導経験をj通じて獲得した指導技術を活用した指導を行う。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 教材研究の方法 2 社会科地理的分野における指導法の実際 3 社会科歴史的分野における指導法の実際 4 社会科公民的分野における指導法の実際 5 学習指導案の作成法 6 模擬授業の実施と研究会 (地理的分野-日本-) 7 模擬授業の実施と研究会 (地理的分野-世界-) 8 模擬授業の実施と研究会 (歴史的分野-古代・中世-) 9 模擬授業の実施と研究会 (歴史的分野-近世・近現代-) 10 模擬授業の実施と研究会 (公民的分野) 11 模擬授業の実施と研究会 (世界史) 12 模擬授業の実施と研究会 (日本史) 13 模擬授業の実施と研究会 (地理) 14 教育実習事前指導 (教育相談と教科教育) 15 指導法に関する総括					

<p>定期試験 定期試験は実施しない。授業中にレポートや模擬授業を課す。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 授業中に課題レポートや模擬授業についてコメントする。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 この授業の中心は、模擬授業である。予習として十分な時間をとった教材研究が必要で、実際に授業ができる学習指導案の作成が求められる。そのためには教科書を十分に読み込み分野別のノートを作成することと、パソコンを活用した教材作成などの準備することが不可欠である。指導案作成に当たっては、担当教員との念入りな打合せをすること。また、授業後は受講者相互で研究会を行い、実施した授業の振り返りをするとともに、授業改善のために学習指導案を修正すること。模擬授業実施者は指導案の作成及び教材研究に十分な時間（10時間程度）は必要であり、授業後の振り返りを元にした指導案の修正にも時間をかける必要がある（2時間程度）。 生徒役の学生も事前に教科書等の予習を行い、授業時の質問など実際の教室での授業を想定しての対応を考えておくことが肝要である。授業後も自分が授業実践するときの改善点をまとめるなどの復習が求められる（予習・復習で3時間程度）。</p>
<p>必携書（教科書販売） 使用しない</p>
<p>必携書（教科書販売以外） <必携書> 中学校社会科教科書『社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の風土』加賀美雅弘ほか22名、帝国書院 中学校社会科教科書『新しい社会 歴史』坂上康俊、矢ヶ崎典隆、谷口将紀ほか108名、東京書籍 中学校社会科教科書『社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して』江口勇治ほか16名、帝国書院 中学校社会科又は高等学校地理歴史科・公民科の教科書のうち、教育実習校で使用予定のもの。 <参考書等> ・『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）』（文部科学省） ・『高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）』（文部科学省） ・『中学校学習指導要領解説（平成29年告示）社会編』（平成30年3月、文部科学省） ・『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）地理歴史編』（平成30年、文部科学省） ・『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）公民編』（平成30年、文部科学省） ・『学習指導案作成教本-社会・地歴・公民科（改訂版）』、教育実習を考える会編、蒼丘書林 ・社会・地歴科教育法Ⅰ・Ⅱ、社会・公民科教育法Ⅰ・Ⅱで使用したテキストを継続使用する。その他は、授業中に指示する。</p>
<p>オフィスアワー 木曜日 5時限</p>
<p>連絡先 tmori@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 ・社会科指導法演習Ⅰと連動させて展開する。 ・模擬授業の実施にあたっては、教材研究を十分行い事前指導を受け、綿密な指導案を作成する。</p>

家庭科指導法演習 I				単位数	2単位
授業コード	16120	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	山本 幾子				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
本授業の概要					
家庭科の学習指導理論に基づき、ICT等を活用した模擬授業及び研究会の実施などを通して、具体的な授業場面を想定した実践的な指導方法を学ぶ。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	生徒の実態を考慮してICTや教材を効果的に活用した授業設計ができるとともに、作成した学習指導案に沿った模擬授業の実施と振り返りを通して授業改善の視点を身に付けている。				
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み度 (20%)				1
2	模擬授業実践力 (40%)				1
3	課題レポート (40%)				1
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
教員として教育実践に携わっていた経験に基づき、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回：学習指導の原理と方法及び学習指導案の構成 第2回：生徒の実態を考慮した教材観、生徒観、指導観 第3回：教材教具（実物見本、段階見本）の作成と活用方法 第4回：教材教具（デジタルコンテンツ）の作成と活用方法 第5回：学習意欲を高め思考の深化に繋がる体験的な学習（ロールレイング）の指導事例 第6回：学習意欲を高め思考の深化に繋がる体験的な学習（疑似体験）の指導事例 第7回：学習指導案作成の手順、ICTの活用方法 第8回：学習指導案の作成（指導と評価の計画、本時案） 第9回：学習指導案の作成（指導細案、板書計画） 第10回：模擬授業及び研究会の進め方、振り返り及び授業改善の方法 第11回：模擬授業の実施と研究会（中学校 家族・家庭生活） 第12回：模擬授業の実施と研究会（中学校 消費生活・環境） 第13回：模擬授業の実施と研究会（高等学校 衣生活） 第14回：模擬授業の実施と研究会（高等学校 食生活） 第15回：家庭に関する専門学科における家庭科教育の現状（現場教員による特別講義）					

定期試験 模擬授業の実施、課題レポートの提出
試験のフィードバックの方法 模擬授業実施後に授業研究会を実施する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ・模擬授業実施に向けて、十分な教材研究を重ねて指導案の作成と授業の練習をする（全50時間）。 ・模擬授業終了後は、授業研究会の内容を踏まえるとともに、録画した授業を分析してレポートを作成する（全10時間）。
必携書（教科書販売） 使用しない
必携書（教科書販売以外） <必携書> 『中学校学習指導要領』、文部科学省 『高等学校学習指導要領』、文部科学省 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』、文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 家庭編』、文部科学省 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 技術・家庭』、国立教育政策研究所教育課程研究センター 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 家庭』、国立教育政策研究所教育課程研究センター ・各実習校が指定した文部科学省検定教科書 <参考書等> 『新版 授業力UP家庭科の授業』、伊藤葉子編著、日本標準
オフィスアワー 月～水の昼休み 12:20～12:50。 質問は随時、電子メールで受け付ける。
連絡先 ikuko@m.ndsu.ac.jp もしくは ikuko@post.ndsu.ac.jp
留意事項 「家庭科指導法演習Ⅱ」と連動させて展開する。

家庭科指導法演習 I I				単位数	2単位
授業コード	16130	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	山本 幾子				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
本授業の概要					
ICTや教材の効果的な活用を図った模擬授業の実施及び研究会などを通して、授業改善の方法を具体的に学ぶ。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	ICTや教材をより効果的に活用した授業設計をし、模擬授業の実施と振り返りを通して実践的な授業改善の視点を身に付けている。				
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み度 (20%)				1
2	模擬授業実践力 (40%)				1
3	課題レポート (40%)				1
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
教員として教育実践に携わっていた経験に基づき、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回：生徒の実態を考慮した授業設計の方法 第2回：家庭科におけるICT及び教材の効果的な活用法 第3回：ICTを活用した衣生活・住生活に関する教材の活用法 第4回：ICTを活用した食生活に関する教材の活用法 第5回：ICTを活用した消費生活に関する教材の活用法 第6回：ICTを活用した保育や家族の生活に関する教材の活用法 第7回：学習指導案の作成（本時案） 第8回：学習指導案の作成（細案と板書計画） 第9回：模擬授業の実施と研究会（個別学習とグループ学習の導入） 第10回：模擬授業の実施と研究会（ディベート等の導入） 第11回：模擬授業の実施と研究会（衣生活に関する実験の導入） 第12回：模擬授業の実施と研究会（住生活に関する実験の導入） 第13回：模擬授業の実施と研究会（調理実習の指導） 第14回：模擬授業の実施と研究会（保育に関する交流活動の指導） 第15回：中学校における家庭科教育の現状（現場教員による特別講義）					

定期試験 模擬授業の実施、課題レポートの提出
試験のフィードバックの方法 模擬授業実施後に授業研究会を実施する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ・模擬授業実施に向けて、十分な教材研究を重ねて指導案の作成と授業の練習をする（全50時間）。 ・模擬授業終了後は、授業研究会の内容を踏まえるとともに、録画した授業を分析してレポートを作成する（全10時間）。
必携書（教科書販売） 使用しない
必携書（教科書販売以外） <必携書> 『中学校学習指導要領』、文部科学省 『高等学校学習指導要領』、文部科学省 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』、文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 家庭編』、文部科学省 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 技術・家庭』、国立教育政策研究所教育課程研究センター 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 家庭』、国立教育政策研究所教育課程研究センター ・各実習校が指定した文部科学省検定教科書 <参考書等> 『新版 授業力UP家庭科の授業』、伊藤葉子編著、日本標準
オフィスアワー 月～水の昼休み 12:20～12:50。 質問は随時、電子メールで受け付ける。
連絡先 ikuko@m.ndsu.ac.jp もしくは ikuko@post.ndsu.ac.jp
留意事項 「家庭科指導法演習Ⅰ」と連動させて展開する。

教育方法論				単位数	2単位
授業コード	16133	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	杉能 道明				
時間割備考	食品栄養学科のみ履修可				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために、教師として必要な教育方法、教育技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。学校教育における学習指導はもとより、給食指導、清掃指導、始業前・休息時・放課後の指導等の生活指導を含めた学校における教育活動全般についての教師の指導方法のあり方について、理論と実践を結び付け、具体的な実践事例をもとに検討し、教職に就く者として必要な指導技術を身に付けることができる。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	・子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	・教育の目的に適した指導技術を知り、身に付けようとする。			知識・技能/主体性	
3	・情報機器や教材の効果的な活用の仕方について基礎的な知識・技能を身に付ける。			知識・技能/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	・定期試験およびレポート 70%			1/2	
2	・授業中の態度 30%			1/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
<p>国立大学附属小学校、県立盲学校、公立小学校の通算22年間の勤務経験を持ち、小1～中3までを担当した経験がある。この実務経験をもとに、子どもの具体的な姿を知らせ、学校現場が求める理論と実践を結び付けた実践的な指導の大切さを伝える。</p>					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<p>第1回：「教育の目的」達成のための教育方法（育成すべき資質・能力、教育方法の理論と実践） 第2回：期待される教師像 教師の1日（教師に求められる資質・能力） 第3回：学級経営（学級づくり、学校と家庭の連携） ・学級経営の計画と内容、環境づくり ・学級事務、保護者との連携 第4回：児童・生徒理解（児童理解の仕方） ・児童理解の方法、内容、対応 ・コンピュータを用いたデータの管理（整理と処理、個人情報の保護） 第5回：学習評価（学習評価の考え方と方法） 第6回：学習指導（1） インターネットを用いた情報の収集と活用及びモラル（情報モラル） 第7回：学習指導（2） Word、Excel、Power Pointを用いた表現及び技術（教材の作成・提示） 第8回：学習指導（3） 各教科（確かな学力の育成、主体的・対話的で深い学びの実現） 第9回：学習指導（4） 各教科（基礎的な指導技術と学習指導案の作成） 第10回：学習指導（5） 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間（現代的課題としての環境・食育・国際理解等）（目標、内容、方法、計画等） 第11回：学習指導（6） 特別活動（集団づくり） 第12回：学習指導（7） 家庭学習（学習習慣の定着）、学習規律（資質・能力を育成する方法） 第13回：生活指導（1） 学校内における日常生活の指導（給食・清掃・休息等）（学校生活） 第14回：生活指導（2） 学校外における日常生活の指導（子どもの安全） 第15回：教育方法の今日的課題（ユニバーサルデザイン、個に応じた支援）</p>					

定期試験 レポート課題提出
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 自分なりの教育観をもつために、日頃から教育問題に関心をもち、本や雑誌、新聞やテレビなどのメディアから情報を得ておいてください。
必携書（教科書販売） <必携書> 「学びを創る・学びを支える」-新しい教育の理論と方法-, 広石英記, 一藝社
必携書（教科書販売以外） <必携書> 小学校学習指導要領（平成29年告示） <参考書等> 自作プリント
オフィスアワー オフィスアワー 火曜日 1・2時限
連絡先 sugino@post.ndsu.ac.jp
留意事項

教育方法論				単位数	2単位
授業コード	16135	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	高旗 浩志				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
<p>授業は次代を担う子どもたちに必要な資質能力を育む重要な場である。この講義では、学習指導場面における教育の方法と技術ならびにICTを活用した教育の方法について、その理論的背景も含めて理解する。欧米の教授学の歴史や日本の授業実践史を学ぶとともに、現代的教育課題も視野に収めつつ理論と実践を架橋する。具体的には、学習指導の技法とその背後にある思想、我が国の教育課程を支える学習指導要領の変遷と内容、学習指導案作成や授業づくりの基礎基本(教材研究、指示・発問・評価言、指導方略、学習形態、教育評価)、教育方法の今日的課題(「主体的・対話的で深い学び」、「特別なニーズへの対応」、「個別最適な学びと協働的な学び」等)、授業とICT活用及び情報活用能力の育成といった内容に取り組む。講義形式を中心とするが、実践事例の検討やケーススタディ等に関しては、協同学習の手法を取り入れ、演習的に行う場合もある。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	中等教育教員に求められる「教育の方法及び技術」ならびに「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の基本を習得する。学習指導をめぐる理論・実践史等を学ぶことで見識を深めるとともに、授業づくりにおける「読解力(学習指導案から授業をイメージし、その良さと課題を言語化する力)」、「構想力(教科学習に係る生徒の実態を踏まえた教材研究と単元構想ができる力)」、「展開力(自らの構想した学習指導案に基づいて授業を実践する力)」、「評価力(生徒の学習活動を評価するとともに、自他の授業の良さと課題を言語化できる力)」を高めることを目指す。具体的には次の3点を重視する。 ①確かな学力(生きる力)を育成する学習指導の基礎基本を理解する。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	②学習指導やICT利活用をめぐる様々な理論・実践を理解して見識を深め、基本的な指導技術を身につける。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	③現代的教育課題を踏まえた学習指導の必要を理解する。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	毎回の講義終了後に作成する400字以上～600字以内のレポートの平均点で評価します。			1/2/3	
2					
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<p>第1回:「教育方法論」の目的と概要 第2回:教育方法学の歴史(1):西洋の教育思想と教育方法の歴史 第3回:教育方法学の歴史(2):日本の教育思想と教育方法の歴史 第4回:教育目標・教育内容のとらえかた -子どもは何を学ぶか 第5回:「学習」とは何か -様々な学習論 第6回:「学力」と学習評価 -様々な学力論と学習評価の考え方 第7回:「学習する集団」を育む授業づくり 第8回:ICT活用による学習指導案づくりの基礎基本(1):学習指導案の構成要素を理解する 第9回:ICT活用による学習指導案づくりの基礎基本(2):単元目標・単元構成と評価規準を理解する 第10回:ICT活用による学習指導案づくりの基礎基本(3):単元観・生徒観・指導観を理解する 第11回:ICT活用による学習指導案づくりの基礎基本(4):本時の展開計画を構想する 第12回:ICT活用による授業観察と研修の実践(1):優れた実践事例に学ぶ 第13回:ICT活用による授業観察と研修の実践(2):研修ツールとしてのLMSとGoogle Jamboard 第14回:ICT活用によるデジタル教材の作成(1):「個別最適な学び」と「協働的な学び」への対応 第15回:ICT活用によるデジタル教材の作成(2):情報活用能力と情報モラルの育成</p>					

定期試験
試験のフィードバックの方法
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</p> <p>毎回の授業終了後に、テーマに係る400字以上600字以内の小レポートをオンラインで提出する。この小レポートを通して理解を深めたり、疑問点を整理したりする。提示された疑問点等については、次時の冒頭で紹介し、学生間のディスカッションを通してさらに理解を深める。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたが取得を希望している免許校種の『学習指導要領解説 総則編』（必携） ・あなたが取得を希望している免許教科・校種の『学習指導要領解説 ○○科編』（必携） ・講義用資料は別途作成し配布します。また参考文献やURL等は講義中に適宜指示します。
必携書（教科書販売以外）
<p>オフィスアワー</p> <p>質問等は授業後に受け付けます。</p>
<p>連絡先</p> <p>takahata@okayama-u.ac.jp</p>
留意事項

道徳教育の理論と方法				単位数	2単位
授業コード	16145	科目ナンバリング	510Z0-2000-x2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	國吉 久美子				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
道徳の本質、道徳教育の今日的な意義と役割、歴史と現状、道徳科の目標と内容、さらに、道徳教育の指導方法や内容等を学ぶ。また、多様な授業例の検討、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業を通して実践的な指導力を身につけると共に、今後の道徳教育の在り方を主体的に考えていく。道徳教育における栄養教諭の在り方についても検討を加える。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容を理解する。また、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付け、自分なりの道徳教育の構想とその具体案を示すことができる。				
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	・授業への取り組み度	10%		1	
2	・定期試験	40%		1	
3	・学習指導案の作成及び模擬授業	30%		1	
4	・小テスト及びレポート	20%		1	
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
中学校教師及び小学校・中学校の管理職として、また、岡山県中教研道徳部副会長、玉野市教育研修所道徳部会長として、小・中学校の道徳教育に長年取り組んできた。その経験から、道徳教育や道徳科の指導の実際、学級経営や生徒指導との関連、学校全体で取り組む道徳教育等を取り上げ、道徳教育の意義と重要性を実感させる。また、学習指導案作成と模擬授業の指導を通して、学生が道徳教育に対して関心・意欲を持ち、実践的指導力を身に付けられるようにする。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 道徳の本質と子どもの道徳性の発達 2 道徳教育の今日的意義と歴史 3 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育 4 道徳教育の目標と内容 5 道徳の教科化～道徳科の目標と内容 6 小学校及び中学校における道徳教育の具体例 7 道徳科の指導(1) 指導計画と評価の在り方 8 道徳科の指導(2) 教材研究の方法 9 道徳科の指導(3) 多様な指導方法の在り方 10 授業のねらいと指導過程を明確にした学習指導案の書き方 11 教材及び学習指導案の検討 12 学習指導案の作成 13 模擬授業 14 模擬授業の振り返りと学習指導案の検討・修正 15 道徳教育の課題					

定期試験 16週目に定期試験を行う。
試験のフィードバックの方法 試験終了後に解説を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎回の授業で指示された課題を完成させてから、次の授業に臨むこと。（約40分） 次週に予定されているテーマに関して、テキストの該当部分を熟読し、内容をまとめておくこと。（約30分） 日頃から、教育問題や道德教育に関する事柄に関心を持ち、紹介する参考図書や参考URL、新聞やTV等に目を通しておくこと。（約20分）
必携書（教科書販売） <必携書> 小学校学習指導要領解説 道德編（平成29年7月）、ISBN978-4-908255-35-9、廣済堂あかつき 中学校学習指導要領解説 道德編（平成29年7月）、ISBN978-4-316-30084-9、教育出版 中学校道德教科書「新訂新しい道德3」（令和3年）、ISBN978-4-487-12403-9、渡邊満・押谷由夫他、東京書籍
必携書（教科書販売以外） <必携書> 中学校学習指導要領（平成29年3月） 小学校学習指導要領（平成29年3月）
オフィスアワー 毎週の授業（水曜日5時限）前後、またはメールによる質問を受ける。
連絡先 S3027@m.ndsu.ac.jp
留意事項 （予習）この授業では、教育問題や道德教育について自分なりの意見が持てるようになることを目指して、新聞を読んだり、関係する本や資料を読む努力が望まれる。 （復習）配布されたプリント類は、以後の学習に活用できるように講義ごとに整理してゆく。また、授業中に出された課題をまとめてくること。

総合的な学習の時間及び特別活動の指導法				単位数	2単位
授業コード	16150	科目ナンバリング	510Z0-2000-x2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	森 泰三、家入 博徳				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
学習指導要領に基づき、総合的な学習(探究)の時間及び特別活動、それぞれの意義及び目標、内容を理解し、教科横断的な学習であることを念頭に置いて指導計画を作成する。小学校・中学校・高等学校における実践事例を研究し、それらの評価を通じて改善の方向を考察する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	総合的な学習(探究)の時間の意義と原理を理解し、各学校における全体指導計画、年間計画、指導案作成の基本的な考え方を理解するとともに、評価・改善の在り方を身に付け表現できる。				
2	特別活動の意義や目標及び内容を理解し、指導の際に必要な知識や実践的指導力を身に付け表現できる。				
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み度、授業課題 (60%)				1/2
2	課題レポート (40%)				1/2
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
中学校・高等学校での指導経験をj通じて獲得した指導技術を活用した指導を行う。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 総合的な学習(探究)の時間及び特別活動の意義 2 学習指導要領における総合的な学習(探究)の時間の目標と内容 3 教科横断型学習に基づく指導計画の作成 4 総合的な学習の時間の全体計画 5 年間指導計画と単元計画の作成 6 総合的な学習(探究)の時間の実際、評価と体制 7 総合的な学習の時間プラン発表① 8 総合的な学習の時間プラン発表② 9 学習指導要領における特別活動の目標と内容 10 教育課程と特別活動 11 学級活動、ホームルームの指導の在り方 12 生徒会活動、学校行事の特質と指導の在り方 13 特別活動と家庭・地域・関係機関との連携 14 特別活動の実践事例 15 特別活動の評価と改善の在り方 担当: 1~8 森 9~15 家入					

定期試験 総合的な学習（探究）の時間、特別活動 それぞれに関するレポート
試験のフィードバックの方法 授業中に授業課題やレポートについてコメントする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎回の授業で、課題を出すので、次の授業で発表したり、ディスカッションしたりする。また、授業時間外に総合的な学習の時間及び特別活動の中学校学習指導要領解説十分に読み込んで予習・復習をしてもらいたい。（課題・予習・復習で3時間程度）
必携書（教科書販売） 中学校学習指導要領解説-総合的な学習の時間編-（平成29年7月告示），ISBN: 978-4827815610，文部科学省，東山書房 高等学校学習指導要領解説-総合的な探究の時間編-（平成30年告示），ISBN: 978-4762505362，文部科学省，学校図書 特別活動指導法改訂2版，令和2年，ISBN: 978-4-536-60114-6，渡部邦雄・緑川哲夫・桑原憲一編，日本文教出版
必携書（教科書販売以外） <参考書等> 中学校学習指導要領（平成29年3月告示），ISBN: 978-4827815580，文部科学省，東山書房 高等学校学習指導要領（平成30年告示），ISBN: 978-4827815672，文部科学省，東山書房 中学校学習指導要領解説-特別活動編-（平成29年7月告示），ISBN: 978-4827815627，文部科学省，東山書房 高等学校学習指導要領解説-特別活動編-（平成30年告示），ISBN: 978-4487286355，文部科学省，東京書籍 小学校学習指導要領（平成29年告示），ISBN: 978-4491034607，文部科学省，東洋館出版社 小学校学習指導要領解説-総合的な学習の時間編-（平成29年告示），ISBN: 978-4491034683，文部科学省，東洋館出版社 小学校学習指導要領解説-特別活動編-（平成29年告示），ISBN: 978-4491034690，文部科学省，東洋館出版社
オフィスアワー 森：木曜日5限 家入：火曜日3限
連絡先 森：tmori@m.ndsu.ac.jp 家入：ieiri@post.ndsu.ac.jp
留意事項 総合的な学習（探究）の時間及び特別活動の学習指導要領解説を授業実践をイメージしながら熟読してほしい。教育の今日的課題に興味・関心を持って、情報収集し考察する態度が重要である。

生徒指導の理論と方法				単位数	2単位
授業コード	16152	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	伊木 洋				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
本授業では、生徒指導、進路指導及びキャリア教育の実践課題について、学校教育における具体的な指導事例を取り上げて考察し、組織的に生徒指導、進路指導及びキャリア教育を実践していくための指導原理と方法を学ぶ。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	学校教育活動全体を通して行われる生徒指導、進路指導及びキャリア教育の実践課題について考察を深めるとともに、他の教職員や関係機関と連携を図りながら組織的に生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技能や素養を身につける。				
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への参加姿勢 (30%)				1
2	提出課題・レポート (30%)				1
3	テスト (40%)				1
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
生徒指導主事、進路指導主事として教育実践に携わった経験に基づいて、学校教育における具体的な指導事例を取り上げて、組織的に生徒指導、進路指導及びキャリア教育を実践していくための考え方と方法を指導する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 教育課程における生徒指導、進路指導及びキャリア教育の位置づけ 2 生徒指導、進路指導及びキャリア教育の意義 3 生徒指導における集団指導・個別指導の方法原理、進路指導及びキャリア教育の視点 4 生徒指導体制、進路指導及びキャリア教育の指導体制の確立 5 生徒指導の実践を支える基底（中学校教諭による特別講義） 6 共感的理解に基づく生徒指導の重要性、テスト(1) 7 生徒指導、キャリア教育の視点を生かした組織的な学校経営、カリキュラム・マネジメント 8 生徒指導を生かした学級経営による基本的生活習慣の確立、規範意識の醸成 9 特別活動（体育祭）を通して行う自己存在感を育む生徒指導 10 特別活動（卒業合唱）を通して行う自己存在感を育む生徒指導 11 生徒指導体制と教育相談体制の基礎的な考え方と違いの理解 12 生徒指導に関する法令の理解を踏まえた個別の課題を抱える生徒への指導の原則 13 暴力行為、いじめ、不登校及び虐待等今日的な課題に対する指導と専門家や関係機関との連携 14 進路指導及びキャリア教育におけるガイダンスとカウンセリング、自己評価、テスト(2) 15 各教科・道徳教育・総合的な学習の時間における生徒指導と進路指導及びキャリア教育					

定期試験 テスト、課題レポートの提出
試験のフィードバックの方法 テスト、課題レポートについて評価後、コメントする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 今日の緊要な教育課題について問題意識を高め、自己の生徒指導観の確立を図っていくことが望まれる。
必携書（教科書販売） <必携書> 『生徒指導提要』，2010年，ISBN978-4-87730-274-0，文部科学省，教育図書
必携書（教科書販売以外） <必携書> 『中学校学習指導要領』，文部科学省 『高等学校学習指導要領』，文部科学省 <参考書等> 『キャリア教育のススメ』，2010年，ISBN978-4-487-80489-4，文部科学省国立教育政策研究所，東京書籍 『中学校キャリア教育の手引き』，2011年，ISBN978-4-316-30026-9，文部科学省，教育出版 『高等学校キャリア教育の手引き』，2011年，ISBN978-4-316-30058-0，文部科学省，教育出版
オフィスアワー オフィスアワー：火曜日4限。随時メールで受け付ける。
連絡先 【伊木】higi@post.ndsu.ac.jp
留意事項 教職課程履修生にふさわしい在り方で受講すること。 今日的な教育課題について関心を持ち、問題意識を高めていくこと。 各時間の自己評価を記述すること。 課題への取り組みを充実させ、期限を厳守して提出すること。

生徒指導及び進路指導・キャリア教育の理論と方法				単位数	2単位
授業コード	16153	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	伊木 洋				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
本授業では、生徒指導、進路指導及びキャリア教育の実践課題について、学校教育における具体的な指導事例を取り上げて考察し、組織的に生徒指導、進路指導及びキャリア教育を実践していくための指導原理と方法を学ぶ。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	学校教育活動全体を通して行われる生徒指導、進路指導及びキャリア教育の実践課題について考察を深めるとともに、他の教職員や関係機関と連携を図りながら組織的に生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技能や素養を身につける。				
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への参加姿勢 (30%)				1
2	提出課題・レポート (30%)				1
3	テスト (40%)				1
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
生徒指導主事、進路指導主事として教育実践に携わった経験に基づいて、学校教育における具体的な指導事例を取り上げて、組織的に生徒指導、進路指導及びキャリア教育を実践していくための考え方と方法を指導する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 教育課程における生徒指導、進路指導及びキャリア教育の位置づけ 2 生徒指導、進路指導及びキャリア教育の意義 3 生徒指導における集団指導・個別指導の方法原理、進路指導及びキャリア教育の視点 4 生徒指導体制、進路指導及びキャリア教育の指導体制の確立 5 生徒指導の実践を支える基底（中学校教諭による特別講義） 6 共感的理解に基づく生徒指導の重要性、テスト(1) 7 生徒指導、キャリア教育の視点を生かした組織的な学校経営、カリキュラム・マネジメント 8 生徒指導を生かした学級経営による基本的生活習慣の確立、規範意識の醸成 9 特別活動（体育祭）を通して行う自己存在感を育む生徒指導 10 特別活動（卒業合唱）を通して行う自己存在感を育む生徒指導 11 生徒指導体制と教育相談体制の基礎的な考え方と違いの理解 12 生徒指導に関する法令の理解を踏まえた個別の課題を抱える生徒への指導の原則 13 暴力行為、いじめ、不登校及び虐待等今日的な課題に対する指導と専門家や関係機関との連携 14 進路指導及びキャリア教育におけるガイダンスとカウンセリング、自己評価、テスト(2) 15 各教科・道徳教育・総合的な学習の時間における生徒指導と進路指導及びキャリア教育					

定期試験 テスト、課題レポートの提出
試験のフィードバックの方法 テスト、課題レポートについて評価後、コメントする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 今日の緊要な教育課題について問題意識を高め、自己の生徒指導観の確立を図っていくことが望まれる。
必携書（教科書販売） <必携書> 『生徒指導提要』，2010年，ISBN978-4-87730-274-0，文部科学省，教育図書
必携書（教科書販売以外） 『中学校学習指導要領』，文部科学省 『高等学校学習指導要領』，文部科学省 <参考書等> 『キャリア教育のススメ』，2010年，ISBN978-4-487-80489-4，文部科学省国立教育政策研究所，東京書籍 『中学校キャリア教育の手引き』，2011年，ISBN978-4-316-30026-9，文部科学省，教育出版 『高等学校キャリア教育の手引き』，2011年，ISBN978-4-316-30058-0，文部科学省，教育出版
オフィスアワー オフィスアワー：火曜日4限。随時メールで受け付ける。
連絡先 higi@post.ndsu.ac.jp
留意事項 教職課程履修生にふさわしい在り方で受講すること。 今日の教育課題について関心を持ち、問題意識を高めていくこと。 各時間の自己評価を記述すること。 課題への取り組みを充実させ、期限を厳守して提出すること。

生徒指導論				単位数	2単位
授業コード	16155	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	土居 裕士				
時間割備考	食品栄養学科のみ履修可				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
小学校における生徒指導の意義と課題を学び、中学校への関連性を視野に入れ、具体的な事例を交えながら、現代小学校教育における生徒指導のあり方を考える。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	生徒指導の教育的意義を積極的な面からとらえ、一人一人の子どもにとって学校生活を有意義かつ充実したものとするための生徒指導のあり方を理解する。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	校内の組織を活用し、また関係機関との連携を密にして、総合的な生徒指導を推進していくための素養を身に付ける。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業後の課題(レポート)30%			1/2	
2	授業での態度20%			1/2	
3	定期試験50%			1/2	
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
担当者自身が小学校教員として実践してきた生徒指導の経験を、随時活用する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 生徒指導の意義と原理 2 教育課程と生徒指導、保健室(養護教諭等)との連携 3 児童生徒の心理と児童生徒理解 4 発達課題と不適応行動 5 学校における生徒指導体制 6 教育相談1:教育相談の意義と進め方 7 教育相談2:表現療法的技法の意味 8 生徒指導の進め方1:児童生徒全体への指導 9 生徒指導の進め方2:問題行動とは何か 10 生徒指導の進め方3:反社会的行動 11 生徒指導の進め方4:非社会的行動 12 生徒指導の進め方5:不登校 13 生徒指導の進め方6:いじめ 14 生徒指導の進め方7:発達障害 15 生徒指導に関する法制度等、関係機関との連携					

定期試験
16 定期試験
試験のフィードバックの方法
manabaに模範解答を掲示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
次週に予定されている学習内容に関して、テキストの該当部分を熟読し、要点をまとめておくこと（約30分）。 生徒指導を全人格教育としてとらえ、受講者自身の体験と重ね合わせて考察しつつ学習するよう、積極的な授業参加を望む。
必携書（教科書販売）
<必携書> 「生徒指導提要」, 2010, ISBN:9784877302740, 文部科学省, 教育図書
必携書（教科書販売以外）
<必携書> 「小学校学習指導要領」（平成29年3月告示）
オフィスアワー
質問は、随時電子メールで受け付ける（メールアドレスは初回授業時に提示）。
連絡先
doi164@m.ndsu.ac.jp
留意事項

教育相談				単位数	2単位
授業コード	16160	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	日下 紀子				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
<p>問題行動・逸脱行動、あるいは大きな悩みや苦痛を抱えた児童生徒を前にしたとき、教師は、彼らがどのような気持ちを抱きながら困っているのかという心理的メカニズムを理解することが重要である。またそのようなときには保護者が抱える困難感についての心理的理解も同時に必要である。学校現場にて教育相談を進める際には、子どもの個々の心理的特質や教育課題を適切に捉え、カウンセリングマインドに基づいた受容・傾聴、共感的理解等の姿勢と技法が必要になる。その基本について学び、理解する。さらには、教育相談における組織的な取り組みや連携の必要性を理解し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの多職種を有効に活用しながら、教師が児童生徒と保護者の支援を行っていく道筋を具体例を通して学んでいく。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	教育相談の意義と課題を理解し、説明できる。			知識・技能	
2	学校現場に生じる問題の背景にある心理メカニズムを理解し、これを活用した働きかけができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	全ての生徒を対象とした進路指導・キャリア教育上の課題に向き合うための教育相談の在り方を理解し説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
4	個別の課題に向き合うための教育相談の方法とその際に必要な組織的な取り組みや、家庭、地域、専門機関との連携を考え、説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み態度・リアクションシート	30%		1/2/3/4	
2	小テスト	10%		1/2/3	
3	期末課題レポート	60%		1/2/3/4	
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
<p>臨床心理士・公認心理師として医療機関や民間の心理相談専門機関にて心理相談ならびに教育相談、心理療法、心理アセスメントに携わっている経験から事例を取り上げ、学校現場に生じる臨床的課題や思春期青年期の心理発達課題、精神力動について多角的、多面的に理解していく。さらに家庭、地域、専門機関との連携についても、事例を通して具体的・実践的に理解し、自ら考え、実行できるような基盤の構築を促す授業を展開する。</p>					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス、学校教育相談の変遷 2. 教育相談の意義と目的、課題 3. 子どもたち（幼児・児童・思春期・青年期）の発達課題と心の問題 4. 校内ニーズの把握（子ども・保護者・教師）-心の問題と進路指導・キャリア教育の視点 5. 心の問題とそのシグナルに気づき、発達課題、関係性を理解する 6. 学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性 7. 受容・傾聴・共感的理解 8. 不登校現象の今日的意味と個々の発達課題の理解-教育相談の目標 9. 保護者とともに子どもとの関係性を理解する-保護者との連携・教育相談の進め方 10. 問題行動（いじめ、虐待、非行等）の心理と意義の理解-教育相談の計画と進め方 11. 心の病と心の傷（トラウマ）への対応-教育相談の展開 12. さまざまなトピックス：性的マイノリティ（LGBT）・教員のメンタルヘルス 13. 教育相談におけるアセスメント 14. 学校内外の組織的指導体制と取り組み 15. 家庭や地域、専門機関との連携 					

定期試験 期末課題レポート
試験のフィードバックの方法 レポートすべての評価が終わった段階で、manaba-folioを通じて全体的な総評を伝える。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習）授業では、リアクションペーパーに疑問点、感想を記載して提出するため、授業で取り上げるテーマについて各自のこれまでの体験や実習に基づいた疑問や考えをできるだけ明らかにし、まとめておくこと。（各1時間、総計15時間以上） （復習）毎回の授業で参考図書、参考URLを紹介する。それらを参考にして、授業内容を定着させるよう各自、主体的に理解を深めていくこと。（各1時間、総計15時間以上）
必携書（教科書販売） 森田健宏・吉田佐治子編著（2018）教育相談-よくわかる！教職エクササイズ③ ミネルヴァ書房 978-4-623-08178-3
必携書（教科書販売以外） <参考書・参考資料等> 中学校生徒指導提要（平成22年3月 文部科学省） 原田眞理（2018）子どものころ、大人のころ-先生や保護者が判断を誤らないための手引書- ナカニシヤ出版 原田眞理（2020）改訂第2版 教育相談の理論と方法 玉川大学出版部 平井正三・上田順一編（2016）学校臨床に役立つ精神分析 誠信書房 Iザルバーガー・ウィッテンバーグ他著 平井正三他監訳（2008）学校現場に生かす精神分析-学ぶことと教えること的情緒的体験 岩崎学術出版社 ビティ・ヨーエル著 平井正三監訳・鈴木誠訳（2009）学校現場に生かす精神分析【実践編】 岩崎学術出版社 *その他の参考文献・資料などは必要に応じて紹介する
オフィスアワー オフィスアワーは、金4限目。
連絡先 noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp
留意事項 この科目は教職課程の必修科目であり、教育現場に出ていく履修者にとっては、きわめて切実な問題に触れ、考える授業ともいえる。積極的に学び取ろうという意欲を持って授業に臨んでもらいたい。

中等教育実習事前事後指導 [英]				単位数	1単位
授業コード	16180	科目ナンバリング	510Z0-4000-x1	開講年度学期	2022年度第1期、2022年度第2期
担当者氏名	伊藤 豊美				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. 教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。				
2	2. 教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解し、記述することができる。				
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	○授業への参加姿勢：20% (到達目標1,2)				1/2
2	○課題レポート：50% (到達目標1,2)				1/2
3	○教育実習日誌：30% (到達目標2)				2
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
教員として教育実践に携わっていた経験に基づいて、教育実習の意義と目的及び基本的な内容と方法を指導するとともに、教育実習をふりかえり成果と課題を自覚できるよう指導する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
《事前指導》					
1. 教育実習の目的、教育実習生としての義務と責任、教員としての法令遵守事項					
2. 生徒一人一人の良さを認め、やる気を引き出す指導(教科指導及び学級指導)					
3. 特別な配慮が必要な生徒との関わり方(教科指導及び学級指導)					
4. 学級担任及び教科担任の服務、協働の重要性と教育効果					
5. 学校現場の教育課題(ICTの活用等)と対応方法、事務処理とその必要性					
6. 教育実習に向けた実践課題の整理と確認					
《事後指導》					
7. 教育実習の成果と課題の省察					
8. 望ましい教師像と取り組むべき課題の具体化					

定期試験 教育実習日誌・課題レポートの提出
試験のフィードバックの方法 教育実習日誌・課題レポートを評価後、返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ○教育実習に向けて、教育実習日誌等、必要な準備、心配り、体調管理を行うこと。(60分)
必携書（教科書販売） 使用しない。
必携書（教科書販売以外） <必携書> ○『中学校学習指導要領』、文部科学省 ○『高等学校学習指導要領』、文部科学省 ○『中学校学習指導要領解説外国語編』、文部科学省 ○『高等学校学習指導要領解説外国語編』、文部科学省 <参考書等> ○「英語科教育法Ⅰ・Ⅱ」「英語科指導法演習Ⅰ・Ⅱ」で用いたテキストを随時使用する。
オフィスアワー 月曜日5時限
連絡先 itoh@post.ndsu.ac.jp
留意事項 ○教育実習生としてふさわしい在り方で受講すること。 ○教育実習生として自覚の乏しい者、欠席の多者、成績不良の者は、学外実習に参加することを認めない。 ○講義の時間帯以外に、模擬授業を実施することがある。

中等教育実習事前事後指導 [日]				【単位数】	1単位
授業コード	16190	科目ナンバリング	510Z0-4000-x1	開講年度学期	2022年度第1期、2022年度第2期
担当者氏名	伊木 洋、家入 博徳				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。				
2	教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解し、記述することができる。				
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への参加姿勢 (20%)				1/2
2	課題レポート (50%)				1/2
3	教育実習日誌 (30%)				2
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
教員として教育実践に携わっていた経験に基づいて、教育実習の意義と目的及び基本的な内容と方法を指導するとともに、教育実習をふりかえり成果と課題を自覚できるよう指導する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
《事前指導》					
1 教育実習の目的、教育実習生としての義務と責任、教員としての法令遵守事項					
2 生徒一人一人の良さを認め、やる気を引き出す指導(教科指導及び学級指導)					
3 特別な配慮が必要な生徒との関わり方(教科指導及び学級指導)					
4 学級担任及び教科担任の職務、協働の重要性と教育効果					
5 学校現場の教育課題(ICTの活用等)と対応方法、事務処理とその必要性					
6 教育実習に向けた実践課題の整理と確認					
《事後指導》					
7 教育実習の成果と課題の省察					
8 望ましい教師像と取り組むべき課題の具体化					

<p>定期試験 教育実習日誌・課題レポートの提出</p>
<p>試験のフィードバックの方法 教育実習日誌・課題レポートを評価後、返却する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 教育実習に向けて、教育実習日誌等、必要な準備、心配り、体調管理を十分行うこと。</p>
<p>必携書（教科書販売） ＜必携書＞ 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料高等学校国語』，2021年，ISBN978-4-491-047003，国立教育政策研究所教育課程研究センター，東洋館出版社</p>
<p>必携書（教科書販売以外） ＜必携書＞ 『中学校学習指導要領』，文部科学省 『高等学校学習指導要領』，文部科学省 『中学校学習指導要領解説国語編』，文部科学省 『高等学校学習指導要領解説国語編』，文部科学省 『高等学校学習指導要領解説芸術編』，文部科学省 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料中学校国語』，2020年，国立教育政策研究所教育課程研究センター，東洋館出版社 中学校国語科用教科書及び高等学校国語科用教科書 『新編 教えるということ』，1996年，大村はま，ちくま学芸文庫 『新編 教室をいきいきと 1』，1994年，大村はま，ちくま学芸文庫 ＜参考書等＞ 『新たな時代の学びを創る中学校高等学校国語科教育研究』，2019年，全国大学国語教育学会編，東洋館出版社 『大村はま国語教室 全15巻別巻1』，大村はま，筑摩書房 「国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」「国語科指導法演習Ⅰ・Ⅱ」で用いたテキストを随時使用する。</p>
<p>オフィスアワー オフィスアワー 【伊木】火曜日4限。随時メールで受け付ける。 【家入】火曜日3限。随時メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先 【伊木】higi@post.ndsu.ac.jp 【家入】ieiri@post.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 教育実習生としてふさわしい在り方で受講すること。 教育実習生として自覚の乏しい者、欠席の多い者、成績不良の者は、学外実習に参加することを認めない。 講義の時間帯以外に、模擬授業を実施することがある。</p>

中等教育実習事前事後指導 [入]				【単位数】	1単位
授業コード	16200	科目ナンバリング	510Z0-4000-x1	開講年度学期	2022年度第1期、2022年度第2期
担当者氏名	山本 幾子				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。				
2	教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までにさらに修得することが必要な知識や技能等を理解し、記述することができる。				
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への参加姿勢 (20%)				1/2
2	課題レポート (50%)				1/2
3	教育実習日誌 (30%)				2
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
教員として教育実践に携わっていた経験に基づいて、教育実習の意義と目的及び基本的な内容と方法を指導するとともに、教育実習を振り返って成果と課題を自覚できるように指導する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
《事前指導》					
1 教育実習の目的、教育実習生としての義務と責任、教員としての法令遵守事項					
2 生徒一人一人の良さを認め、やる気を引き出す指導(教科指導及び学級指導)					
3 特別な配慮が必要な生徒との関わり方(教科指導及び学級指導)					
4 学級担任及び教科担任の服務、協働の重要性と教育効果					
5 学校現場の教育課題(ICTの活用等)と対応方法、事務処理とその必要性					
6 教育実習に向けた実践課題の整理と確認					
《事後指導》					
7 教育実習の成果と課題の省察					
8 望ましい教師像と取り組むべき課題の具体化					

<p>定期試験 教育実習日誌・課題レポートの提出</p>
<p>試験のフィードバックの方法 教育実習日誌・課題レポートを評価後、返却する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習に向けて、教育実習日誌や教科指導・学級指導等に必要な準備、健康管理を十分行うこと。 ・実習前は、各回の内容に沿った現場での指導例や対応を具体化しておく（約1時間）。 ・実習後は、教科指導や学級指導等を中心に実習のすべてを省察し、成果と課題を明らかにする（5時間） </p>
<p>必携書（教科書販売） 使用しない</p>
<p>必携書（教科書販売以外） <必携書> 『中学校学習指導要領』， 文部科学省 『高等学校学習指導要領』， 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』， 文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 家庭編』， 文部科学省 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 技術・家庭』， 国立教育政策研究所教育課程研究センター 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 家庭』， 国立教育政策研究所教育課程研究センター ・各実習校が指定した文部科学省検定教科書 <参考書等> 『新版 授業力UP家庭科の授業』， 伊藤葉子編著，日本標準 </p>
<p>オフィスアワー 月～水の昼休み 12：20～12：50。 質問は随時、電子メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先 ikuko@m.ndsu.ac.jp もしくは ikuko@post.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習生としてふさわしい在り方で受講すること。 ・教育実習生として自覚の乏しい者、欠席の多い者、成績不良の者は、学外実習に参加することを認めない。 ・講義の時間帯以外に、模擬授業を実施することがある。 </p>

中等教育実習Ⅰ [英]				単位数	4単位
授業コード	16210	科目ナンバリング	510Z0-4000-x4	開講年度学期	2022年度第1期、2022年度第2期
担当者氏名	伊藤 豊美				
時間割備考	学外実習				
授業形態(主)	3 実験・実習・実技				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>本授業（教育実習）は、中学校または高等学校で3週間実施する。教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. 生徒との関わりを通して実態や課題を把握するとともに、指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。				
2	2. 教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びに組織体制を理解し、学級担任及び教科担当等の補助的な役割を担うことができる。				
3	3. 生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた適切な学習指導案を作成し、学習指導に必要な基礎的技術を実地に即して身に付けるとともに、ICTを活用して授業を実践することができる。				
4	4. 学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解し、教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わる ことができる。				
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	○実習への参加姿勢：20%（到達目標1, 2, 3, 4）				1/2/3/4
2	○教育実習評価表による評価：50%（到達目標1, 2, 3, 4）				1/2/3/4
3	○教育実習日誌：30%（到達目標1）				1
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
<p>教員として教育実践に携わっていた経験に基づき、教育実習校の指導教員と連携して教育実習を実施し、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。</p>					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<p>○実習校と連携を図り、指導計画に即して実施する。 ○教育実習は、次のような内容で実施する。 ・校長・教頭・実習指導主任・学年主任の講話（学校経営、学年経営、指導組織等） ・生徒指導主事の講話（校務分掌） ・教務主任の講話（校務分掌） ・進路指導主任の講話（校務分掌） ・教科指導の参観（生徒の実態や課題の把握、観察・記録） ・教科以外の参観（生徒の実態や課題の把握、観察・記録） ・参加実習（授業及び教科担任の職務の一部を補助的に担当） ・参加実習（学級担任の職務の一部を補助的に担当） ・参加実習（特別活動等、教科指導以外の様々な指導の一部を補助的に担当） ・生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた学習指導案の作成 ・授業実習（10～20時間） ・研究授業の実施（学習指導に必要な基礎的技術の習得、情報機器の活用） ・授業に関する研究協議 ・教育実習の反省 ・教育実習日誌の作成及び教育実習の整理 ○教育実習日誌の提出 ○実習総時間数120時間以上を以って、単位認定の対象とする。</p>					

定期試験 教育実習日誌
試験のフィードバックの方法 教育実習日誌を評価後、返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ○教育実習校の指導教員の指導のもと、生徒の実態と学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、教育目標にふさわしい言語活動を位置づけ、指導と評価の充実に図った学習指導案を作成すること。 ○授業に実施に当たっては、事前に教育実習校の指導教員に学習指導案を提出し、綿密な準備をすること。 ○教育実習日誌を丁寧に作成し、学び得たことを蓄積すること。 *実習期間中は、予習・復習に3時間以上が必要。
必携書（教科書販売） ＜必携書＞ 使用しない
必携書（教科書販売以外） ＜必携書＞ ○『中学校学習指導要領』、文部科学省 ○『高等学校学習指導要領』、文部科学省 ○『中学校学習指導要領解説外国語編』、文部科学省 ○『高等学校学習指導要領解説外国語編』、文部科学省 ○各実習校が指定した文部科学省検定教科書 ＜参考書等＞ ○「英語科教育法Ⅰ・Ⅱ」「英語科指導法演習Ⅰ・Ⅱ」で用いたテキストを随時使用する。
オフィスアワー 月曜日5時限
連絡先 itoh@post.ndsu.ac.jp
留意事項 ○教育実習生としてふさわしい在り方で教育実習に臨むこと。 ○教育実習生として自覚に乏しい者、欠席の多い者、成績不良の者は、。学外実習に参加することを認めない。 ○自らの責任の重さを自覚し、実習校の教育方針及び教育計画に従うこと。 ○教育実習生としてのマナーを厳守すること。

中等教育実習Ⅰ [日]				単位数	4単位
授業コード	16220	科目ナンバリング	510Z0-4000-x4	開講年度学期	2022年度第1期、2022年度第2期
担当者氏名	伊木 洋、家入 博徳				
時間割備考	学外実習				
授業形態(主)	3 実験・実習・実技				
授業形態(副)					
本授業の概要					
本授業(教育実習)は、中学校または高等学校で3週間実施する。教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につける。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	生徒との関わりを通して実態や課題を把握するとともに、指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実にして記録することができる。				
2	教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びに組織体制を理解し、学級担任及び教科担任等の補助的な役割を担うことができる。				
3	生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた適切な学習指導案を作成し、学習指導に必要な基礎的技術を実地に即して身につけるとともに、ICTを活用して授業を実践することができる。				
4	学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解し、教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わる事ができる。				
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	実習への参加姿勢 (20%)				1/2/3/4
2	教育実習評価表による評価 (50%)				1/2/3/4
3	教育実習日誌 (30%)				1
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
教員として教育実践に携わっていた経験に基づき、教育実習校の指導教員と連携して教育実習を実施し、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<p>○実習校と連携を図り、指導計画に即して実施する。</p> <p>○教育実習は、次のような内容で実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長、教頭、教育実習指導主任、学年主任の講話(学校経営、学年経営、指導組織等) ・生徒指導主事の講話(校務分掌) ・教務主任の講話(校務分掌) ・進路指導主事の講話(校務分掌) ・教科指導の参観(生徒の実態や課題の把握、観察・記録) ・教科指導以外の参観(生徒の実態や課題の把握、観察・記録) ・参加実習(授業及び教科担任の職務の一部を補助的に担当) ・参加実習(学級担任の職務の一部を補助的に担当) ・参加実習(特別活動、学校事務等、教科指導以外の職務の一部を補助的に担当) ・生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた学習指導案の作成 ・授業実習(10~20時間) ・研究授業の実施(学習指導に必要な基礎的技術の習得、ICTの活用) ・授業に関する研究協議 ・教育実習の反省 ・教育実習日誌の作成及び教育実習の整理 <p>○教育実習日誌の提出</p> <p>○実習総時間数120時間以上を以って、単位認定の対象とする。</p>					

<p>定期試験 教育実習日誌の提出</p>
<p>試験のフィードバックの方法 教育実習日誌を評価後、返却する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 教育実習校の指導教員の指導のもと、生徒の実態と学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、目標達成にふさわしい言語活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成すること。 授業の実施に当たっては、事前に教育実習校の指導教員に学習指導案を提出し、綿密な準備をすること。 教育実習日誌を丁寧に作成し、学び得たことを蓄積すること。</p>
<p>必携書（教科書販売） <必携書> 使用しない</p>
<p>必携書（教科書販売以外） <必携書> 『中学校学習指導要領』，文部科学省 『高等学校学習指導要領』，文部科学省 『中学校学習指導要領解説国語編』，文部科学省 『高等学校学習指導要領解説国語編』，文部科学省 『高等学校学習指導要領解説芸術編』，文部科学省 各実習校が指定した文部科学省検定教科書 <参考書等> 『新たな時代の学びを創る中学校高等学校国語科教育研究』，2019年，全国大学国語教育学会編，東洋館出版社 『大村はま国語教室 全15巻 別巻1』，大村はま，筑摩書房</p>
<p>オフィスアワー オフィスアワー： 【伊木】火曜日4限。随時メールで受け付ける。 【家入】火曜日3限。随時メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先 【伊木】higi@post.ndsu.ac.jp 【家入】ieiri@post.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 教育実習生としてふさわしい在り方で教育実習に臨むこと。 教育実習生として自覚の乏しい者、欠席の多い者、成績不良の者は、学外実習に参加することを認めない。 自らの責任の重さを自覚し、実習校の教育方針及び教育計画に従うこと。 教育実習生としてのマナーを厳守すること。</p>

中等教育実習Ⅰ [人]				単位数	4単位
授業コード	16230	科目ナンバリング	510Z0-4000-x4	開講年度学期	2022年度第1期、2022年度第2期
担当者氏名	山本 幾子				
時間割備考	学外実習				
授業形態(主)	3 実験・実習・実技				
授業形態(副)					
本授業の概要					
本授業(教育実習)は、中学校または高等学校で3週間実施する。教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実践を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	生徒との関わりを通して実態や課題を把握するとともに、指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実にして記録することができる。				
2	教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びに組織体制を理解し、学級担任及び教科担任等の補助的な役割を担うことができる。				
3	生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた適切な指導案を作成し、学習指導に必要な基礎的技術を実地に即して身に付けるとともに、ICTを活用して授業を実践することができる。				
4	学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解し、教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わる事ができる。				
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	実習への参加姿勢 (20%)				1/2/3/4
2	教育実習評価表による評価 (50%)				1/2/3/4
3	教育実習日誌 (30%)				1
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
教員として教育実践に携わっていた経験に基づき、教育実習校の指導教員と連携して教育実習を実施し、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ul style="list-style-type: none"> ○実習校と連携を図り、指導計画に即して実施する。 ○教育実習は、次のような内容で実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・校長・教頭・教育実習指導主任・学年主任の講話(学校経営、学年経営、指導組織等) ・生徒指導主事の講話(校務分掌) ・教務主任の講話(校務分掌) ・進路指導主事の講話(校務分掌) ・教科指導の参観(生徒の実態や課題の把握、観察・記録) ・教科指導以外の参観(生徒の実態や課題の把握、観察・記録) ・参加実習(授業及び教科担任の職務の一部を補助的に担当) ・参加実習(学級担任の職務の一部を補助的に担当) ・参加実習(特別活動、学校事務等、教科指導以外の職務の一部を補助的に担当) ・生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた学習指導案の作成 ・授業実習(10~20時間) ・研究授業の実施(学習指導に必要な基礎的技術の習得、ICTの活用) ・授業に関する研究協議会 ・教育実習の反省 ・教育実習日誌の作成及び教育実習の整理 ○教育実習日誌の提出 ○実習総時間数120時間以上をもって、単位認定の対象とする。 					

<p>定期試験 教育実習日誌の提出</p>
<p>試験のフィードバックの方法 教育実習日誌を評価後、返却する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ・教育実習校の指導教員の指導のもと、生徒の実態と学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、目標達成にふさわしい言語活動や学習活動を位置付け、指導と評価の充実を図った学習指導案の作成等をする（毎日3時間）。 ・教育実習日誌を丁寧に作成し、学び得たことを蓄積する（毎日1時間）。</p>
<p>必携書（教科書販売） 使用しない</p>
<p>必携書（教科書販売以外） <必携書> 『中学校学習指導要領』、文部科学省 『高等学校学習指導要領』、文部科学省 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』、文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 家庭編』、文部科学省 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 技術・家庭』、国立教育政策研究所教育課程研究センター 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 家庭』、国立教育政策研究所教育課程研究センター ・各実習校が指定した文部科学省検定教科書 <参考書等> 『新版 授業力UP家庭科の授業』、伊藤葉子編著、日本標準</p>
<p>オフィスアワー 月～水の昼休み 12:20～12:50。 質問は随時、電子メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先 ikuko@m.ndsu.ac.jp もしくは ikuko@post.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 ・教育実習生としてふさわしい在り方で教育実習に臨むこと。 ・教育実習生として自覚の乏しい者、欠席の多い者、成績不良の者は、学外実習に参加することを認めない。 ・自らの責任の重さを自覚し、実習校の教育方針及び教育計画に従うこと。 ・教育実習生としてのマナーを厳守すること。</p>

中等教育実習 I I [英]				単位数	2単位
授業コード	16240	科目ナンバリング	510Z0-4000-x2	開講年度学期	2022年度第1期、2022年度第2期
担当者氏名	伊藤 豊美				
時間割備考	学外実習				
授業形態(主)	3 実験・実習・実技				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>本授業(学外実習)は、高等学校で2週間実施する。教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. 生徒との関わりを通して実態や課題を把握するとともに、指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。				
2	2. 教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動ならびに組織体制を理解し、学級担任及び教科担任等の補助的な役割を担うことができる。				
3	3. 生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた適切な学習指導案を作成し、学習指導に必要な基礎的技術を実地に即して身に付けるとともに、ICTを活用して授業を実践することができる。				
4	4. 学級旧担任の役割と職務内容を實地に即して理解し、教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わることができる。				
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	・実習への参加姿勢：20% (到達目標1, 2, 3, 4)				1/2/3/4
2	・教育実習評価表による評価：50% (到達目標1, 2, 3, 4)				1/2/3/4
3	・教育実習日誌：30% (到達目標1)				1
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
<p>教員として教育実践に携わっていた経験に基づき、教育実習校の指導教員と連携して教育実習を実施し、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。</p>					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<p>○実習校と連携を図り、指導計画に即して実施する。 ○教育実習は、次のような内容で実施する。 ・校長・教頭・教育実習指導主任・学年主任の講話(学校経営、学年経営、指導組織等) ・生徒指導主事の講話(校務分掌) ・教務主任の講話(校務分掌) ・進路指導主任の講話(校務分掌) ・教科指導の参観(生徒の実態や課題の把握、観察・記録) ・教科指導以外の参観(生徒の実態や課題の把握、観察・記録) ・参加実習(授業及び教科担任の職務の一部を補助的に担当) ・参加実習(学級担任の職務の一部補助的に担当) ・参加実習(特別活動、学校事務等、教科指導以外の職務の一部を補助的に担当) ・生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた学習指導案の作成 ・授業実習(5~15時間) ・研究授業の実施(学習指導に必要な基礎的技術の習得、情報機器の活用) ・授業に関する研究協議 ・教育実習の反省 ・教育実習日誌の作成及び教育実習の整理 ○教育実習日誌の提出 ○実習総時間数60時間以上を以って、単位認定の対象とする。</p>					

定期試験 教育実習日誌
試験のフィードバックの方法 教育実習日誌を評価後、返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ○教育実習校の指導教員の指導のもと、生徒の実態と学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、目標達成にふさわしい言語活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成すること。 ○授業に実施に当たっては、事前に教育実習校の指導教員に学習指導案を提出し、綿密は準備をすること。 ○教育実習日誌を丁寧に作成し、学び得たことを蓄積すること。 *実習期間中は、予習・復習に3時間以上が必要。
必携書（教科書販売） <必携書> 使用しない
必携書（教科書販売以外） <必携書> ○『高等学校学習指導要領』、文部科学省 ○『高等学校学習指導要領解説外国語編』、文部科学省 ○各実習校から指定された文部科学省検定教科書 <参考書等> ○「英語科教育法Ⅰ・Ⅱ」「英語科指導法演習Ⅰ・Ⅱ」で用いたテキストを随時使用する。
オフィスアワー 月曜日5時限
連絡先 itoh@post.ndsu.ac.jp
留意事項 ○教育実習生としてふさわしい在り方で教育実習に臨むこと。 ○教育実習生として自覚に乏しい者、欠席の多い者、成績不良の者は、学外実習に参加することを認めない。 ○自らの責任の重さを自覚し、実習校の教育方針及び教育計画に従うこと。 ○教育実習生としてマナーを厳守すること。

中等教育実習ⅠⅠ [日]				単位数	2単位
授業コード	16250	科目ナンバリング	510Z0-4000-x2	開講年度学期	2022年度第1期、2022年度第2期
担当者氏名	伊木 洋、家入 博徳				
時間割備考	学外実習				
授業形態(主)	3 実験・実習・実技				
授業形態(副)					
本授業の概要					
本授業(教育実習)は、中学校または高等学校で2週間実施する。教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につける。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	生徒との関わりを通して実態や課題を把握するとともに、指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実にして記録することができる。				
2	教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びに組織体制を理解し、学級担任及び教科担任等の補助的な役割を担うことができる。				
3	生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた適切な学習指導案を作成し、学習指導に必要な基礎的技術を実地に即して身につけるとともに、ICTを活用して授業を実践することができる。				
4	学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解し、教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わる事ができる。				
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	実習への参加姿勢 (20%)				1/2/3/4
2	教育実習評価表による評価 (50%)				1/2/3/4
3	教育実習日誌 (30%)				1
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
教員として教育実践に携わっていた経験に基づき、教育実習校の指導教員と連携して教育実習を実施し、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<p>○実習校と連携を図り、指導計画に即して実施する。</p> <p>○教育実習は、次のような内容で実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長、教頭、教育実習指導主任、学年主任の講話(学校経営、学年経営、指導組織等) ・生徒指導主事の講話(校務分掌) ・教務主任の講話(校務分掌) ・進路指導主事の講話(校務分掌) ・教科指導の参観(生徒の実態や課題の把握、観察・記録) ・教科指導以外の参観(生徒の実態や課題の把握、観察・記録) ・参加実習(授業及び教科担任の職務の一部を補助的に担当) ・参加実習(学級担任の職務の一部を補助的に担当) ・参加実習(特別活動、学校事務等、教科指導以外の職務の一部を補助的に担当) ・生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた学習指導案の作成 ・授業実習(5~15時間) ・研究授業の実施(学習指導に必要な基礎的技術の習得、ICTの活用) ・授業に関する研究協議 ・教育実習の反省 ・教育実習日誌の作成及び教育実習の整理 <p>○教育実習日誌の提出</p> <p>○実習総時間数60時間以上を以って、単位認定の対象とする。</p>					

<p>定期試験 教育実習日誌の提出</p>
<p>試験のフィードバックの方法 教育実習日誌を評価後、返却する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 教育実習校の指導教員の指導のもと、生徒の実態と学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、目標達成にふさわしい言語活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成すること。 授業の実施に当たっては、事前に教育実習校の指導教員に学習指導案を提出し、綿密な準備をすること。 教育実習日誌を丁寧に作成し、学び得たことを蓄積すること。</p>
<p>必携書（教科書販売） ＜必携書＞ 使用しない</p>
<p>必携書（教科書販売以外） ＜必携書＞ 『中学校学習指導要領』， 文部科学省 『高等学校学習指導要領』， 文部科学省 『中学校学習指導要領解説国語編』， 文部科学省 『高等学校学習指導要領解説国語編』， 文部科学省 『高等学校学習指導要領解説芸術編』， 文部科学省 各実習校が指定した文部科学省検定教科書 ＜参考書等＞ 『新たな時代の学びを創る中学校高等学校国語科教育研究』， 2019年， 全国大学国語教育学会編， 東洋館出版社 『大村はま国語教室 全15巻 別巻1』， 大村はま， 筑摩書房</p>
<p>オフィスアワー オフィスアワー： 【伊木】 火曜日4限。随時メールで受け付ける。 【家入】 火曜日3限。随時メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先 【伊木】 higi@post.ndsu.ac.jp 【家入】 ieiri@post.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 本授業は、高校一種免許状のみを希望する者を対象とする。 教育実習生としてふさわしい在り方で教育実習に臨むこと。 教育実習生として自覚の乏しい者、欠席の多い者、成績不良の者は、学外実習に参加することを認めない。 自らの責任の重さを自覚し、実習校の教育方針及び教育計画に従うこと。 教育実習生としてのマナーを厳守すること。</p>

中等教育実習ⅠⅠ [人]				単位数	2単位
授業コード	16260	科目ナンバリング	510Z0-4000-x2	開講年度学期	2022年度第1期、2022年度第2期
担当者氏名	山本 幾子				
時間割備考	学外実習				
授業形態(主)	3 実験・実習・実技				
授業形態(副)					
本授業の概要					
本授業(教育実習)は、中学校または高等学校で2週間実施する。教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実践を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	生徒との関わりを通して実態や課題を把握するとともに、指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実にして記録することができる。				
2	教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びに組織体制を理解し、学級担任及び教科担任等の補助的な役割を担うことができる。				
3	生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた適切な指導案を作成し、学習指導に必要な基礎的技術を実地に即して身に付けるとともに、ICTを活用して授業を実践することができる。				
4	学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解し、教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わる事ができる。				
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	実習への参加姿勢 (20%)				1/2/3/4
2	教育実習評価表による評価 (50%)				1/2/3/4
3	教育実習日誌 (30%)				1
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
教員として教育実践に携わっていた経験に基づき、教育実習校の指導教員と連携して教育実習を実施し、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<p>○実習校と連携を図り、指導計画に即して実施する。</p> <p>○教育実習は、次のような内容で実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長・教頭・教育実習指導主任・学年主任の講話(学校経営、学年経営、指導組織等) ・生徒指導主事の講話(校務分掌) ・教務主任の講話(校務分掌) ・進路指導主事の講話(校務分掌) ・教科指導の参観(生徒の実態や課題の把握、観察・記録) ・教科指導以外の参観(生徒の実態や課題の把握、観察・記録) ・参加実習(授業及び教科担任の職務の一部を補助的に担当) ・参加実習(学級担任の職務の一部を補助的に担当) ・参加実習(特別活動、学校事務等、教科指導以外の職務の一部を補助的に担当) ・生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた学習指導案の作成 ・授業実習(5~15時間) ・研究授業の実施(学習指導に必要な基礎的技術の習得、ICTの活用) ・授業に関する研究協議会 ・教育実習の反省 ・教育実習日誌の作成及び教育実習の整理 <p>○教育実習日誌の提出</p> <p>○実習総時間数60時間以上をもって、単位認定の対象とする。</p>					

<p>定期試験 教育実習日誌の提出</p>
<p>試験のフィードバックの方法 教育実習日誌を評価後、返却する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ・教育実習校の指導教員の指導のもと、生徒の実態と学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、目標達成にふさわしい言語活動や学習活動を位置付け、指導と評価の充実を図った学習指導案の作成等をする（毎日3時間）。 ・教育実習日誌を丁寧に作成し、学び得たことを蓄積する（毎日1時間）。</p>
<p>必携書（教科書販売） 使用しない</p>
<p>必携書（教科書販売以外） <必携書> 『中学校学習指導要領』、文部科学省 『高等学校学習指導要領』、文部科学省 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』、文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 家庭編』、文部科学省 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校技術・家庭』、国立教育政策研究所教育課程研究センター 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 家庭』、国立教育政策研究所教育課程研究センター ・各実習校が指定した文部科学省検定教科書 <参考書等> 『新版 授業力UP家庭科の授業』、伊藤葉子編著、日本標準</p>
<p>オフィスアワー 月～水の昼休み 12:20～12:50。 質問は随時、電子メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先 ikuko@m.ndsu.ac.jp もしくは ikuko@post.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 ・本授業は、高校一種免許状のみを希望する者を対象とする。 ・教育実習生としてふさわしい在り方で教育実習に臨むこと。 ・教育実習生として自覚の乏しい者、欠席の多い者、成績不良の者は、学外実習に参加することを認めない。 ・自らの責任の重さを自覚し、実習校の教育方針及び教育計画に従うこと。 ・教育実習生としてのマナーを厳守すること。</p>

教職実践演習（中・高） [英]				単位数	2単位
授業コード	16265	科目ナンバリング	510Z0-4000-x2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	伊藤 豊美				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
本授業の概要					
<p>教職課程履修の総括として4年間の学びをふまえ、教員免許取得までにさらに習得すべき知識や技能等を明確にし、教育者としての愛情と使命感を深め、学校教育において必要とされる教育実践及び教育実践研究の基礎的な能力を身に付ける。そのために、学校現場での学びを含む幅広い内容で授業を構成し、現地調査、事例研究、グループ討議等、演習形式で授業を行う。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	教職課程における学びをふりかえり、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめ、学びの成果と今後の課題を記述することができる。				
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	○授業時の活動状況：40%				1
2	○課題レポート：30%				1
3	○定期試験：30%				1
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
教員として教育実践に携わっていた経験に基づいて、教育実践に関する基礎的な能力及び教育者としての自覚を育成する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 演習①「青年教師としての在り方・生き方」（グループ討議） 2 演習②「教育課程の実際とICTの活用」（グループ討議） 3 演習③「生徒指導の理論と実践」（グループ討議） 4 演習④「学校運営と地域連携の在り方」（グループ討議） 5 現地調査①「授業参観」（中学校） 6 現地調査②「授業参観」（高等学校） 7 現地調査③「教育の心」（訪問学校の校長による講話） 8 現地調査④「学校現場の実際」（訪問学校の教員とのグループ討論） 9 演習⑤「これからの若い先生に期待すること」（グループ討議）（元校長会会長） 10 演習⑥「女性教師としての生き方」（グループ討議）（元中学校長） 11 事例研究①「より良い授業を目指して」（現職教諭） 12 事例研究②「心の教育をいかに実践するか」（現職教諭） 13 模擬授業①（中学校＜ロールプレイを含む＞） 14 模擬授業②（高等学校＜ロールプレイを含む＞） 15 4年間の総括					

<p>定期試験 定期試験・課題レポートの提出</p>
<p>試験のフィードバックの方法 後日、解答を掲示。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ○教職課程における学びの総括として位置づけ、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめるため、これまでの学びの記録を整理しておくこと。 * 予習・復習に2時間以上が必要。</p>
<p>必携書（教科書販売） <必携書> 使用しない</p>
<p>必携書（教科書販売以外） <必携書> ○『中学校学習指導要領』、文部科学省 ○『高等学校学習指導要領』、文部科学省 ○『中学校学習指導要領解説 総則編』、文部科学省 ○『中学校学習指導要領解説 外国語編』、文部科学省 ○『高等学校学習指導要領解説 総則編』、文部科学省 ○『高等学校学習指導要領解説 外国語編』、文部科学省 <参考書等> 担当者から別途指示する。</p>
<p>オフィスアワー 月曜日5時限</p>
<p>連絡先 itoh@post.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 ○教職課程履修者生としてふさわしい在り方で受講すること。 ○教員として必要な資質・能力が身に付いているか、現地調査、事例研究、グループ討議等を通して確認するための授業であることを自覚すること。</p>

教職実践演習（中・高）〔日〕				【単位数】	2単位
授業コード	16267	科目ナンバリング	510Z0-4000-x2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	伊木 洋、家入 博徳				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
本授業の概要					
教職課程履修の総括として4年間の学びをふまえ、教員免許取得までにさらに習得すべき知識や技能等を明確にし、教育者としての愛情と使命感を深め、学校教育において必要とされる教育実践及び教育実践研究の基礎的な能力を身につける。そのために、学校現場での学びを含む幅広い内容で授業を構成し、現地調査、事例研究、グループ討議等、演習形式で授業を行う。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	教職課程における学びをふりかえり、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめ、学びの成果と今後の課題を記述することができる。				
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業時の活動状況 (40%)				1
2	課題レポート (30%)				1
3	定期試験 (30%)				1
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
教員として教育実践に携わっていた経験に基づいて、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 演習①「青年教師としての在り方・生き方」(グループ討議) 2 演習②「教育課程の実際とICTの活用」(グループ討議) 3 演習③「生徒指導の理論と実践」(グループ討議) 4 演習④「学校運営と地域連携の在り方」(グループ討議) 5 現地調査①「授業参観」(中学校) 6 現地調査②「授業参観」(高等学校) 7 現地調査③「教育の心」(訪問学校の校長による講話) 8 現地調査④「学校現場の実際」(訪問学校の教員とのグループ討議) 9 演習⑤「これからの若い先生に期待すること」(グループ討議) 10 演習⑥「女性教師としての生き方」(グループ討議)(元中学校長) 11 事例研究①「より良い授業を目指して」(現職教諭) 12 事例研究②「心の教育をいかに実践するか」(現職教諭) 13 模擬授業①(中学校<ロールプレイ含む>) 14 模擬授業②(高等学校<ロールプレイを含む>) 15 4年間の総括					

<p>定期試験 定期試験、教職履修カルテ・課題レポートの提出</p>
<p>試験のフィードバックの方法 教職履修カルテを評価後、返却する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 教職課程における学びの総括として位置づけ、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめるため、これまでの学びの記録を整理しておくこと。</p>
<p>必携書（教科書販売） <必携書> 使用しない</p>
<p>必携書（教科書販売以外） <必携書> 『中学校学習指導要領』，文部科学省 『高等学校学習指導要領』，文部科学省 『中学校学習指導要領解説総則編』，文部科学省 『中学校学習指導要領解説国語編』，文部科学省 『高等学校学習指導要領解説総則編』，文部科学省 『高等学校学習指導要領解説国語編』，文部科学省 『高等学校学習指導要領解説芸術編』，文部科学省 <参考書等> 担当者から別途指示する。</p>
<p>オフィスアワー オフィスアワー： 【伊木】 火曜日4限。随時メールで受け付ける。 【家入】 火曜日3限。随時メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先 【伊木】 higi@post.ndsu.ac.jp 【家入】 ieiri@post.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 教職課程履修生としてふさわしい在り方で受講すること。 教員として必要な資質・能力が身についているか、現地調査、事例研究、グループ討議等を通して確認するための授業であることを自覚すること。</p>

教職実践演習（中・高） [現]				【単位数】	2単位
授業コード	16269	科目ナンバリング	510Z0-4000-x2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	森 泰三				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
本授業の概要					
<p>教職課程履修の総括として4年間の学びをふまえ、教員免許状取得までにさらに習得すべき知識や技能等を明確にし、教育者としての愛情と使命感を深め、学校教育において必要とされる教育実践研究の基礎的な能力を身に付ける。そのために、学校現場での学びを含む幅広い内容で授業を構成し、現地調査、事例研究、グループ討議等を中心として、演習形式で授業を行う。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	教職課程における学びをふりかえり、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめ、学びの成果と今後の課題を明確に表現することができる。				
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業時の活動状況 (40%)				1
2	課題レポート (30%)				1
3	定期試験 (30%)				1
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
<p>教員として教育実践に携わっていた経験に基づき、教育実習校の指導教員と連携して教育実習を実施し、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。</p>					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<p>1 演習①「青年教師としての在り方・生き方」(グループ討議) 2 演習②「教育課程の実際とICTの活用」(グループ討議) 3 演習③「生徒指導の理論と実践」(グループ討議) 4 演習④「学校運営と地域連携の在り方」(グループ討議) 5 現地調査①「授業参観」(中学校) 6 現地調査②「授業参観」(高等学校) 7 現地調査③「教育の心」(訪問学校の校長による講話) 8 現地調査④「学校現場の実際」(訪問学校の教員によるグループ討議) 9 演習⑤「これからの若い先生に期待すること」(グループ討議) 10 演習⑥「女性教師としての生き方」(グループ討議) 11 事例研究①「より良い授業を目指して」(現職教諭) 12 事例研究②「心の教育をいかに実践するか」(現職教諭) 13 模擬授業①(中学校<ロールプレイを含む>) 14 模擬授業②(高等学校<ロールプレイを含む>) 15 4年間の総括</p>					

<p>定期試験</p> <p>16 定期試験を行う。内容は授業の各項目別の論述である。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p> <p>試験終了後に採点基準を示す。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</p> <p>教職課程における学びの総括として位置づけ、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめるため、教職履修カルテ等を通してこれまでの学びの記録を整理しておくこと。予習・復習に3時間程度。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p> <p>使用しない。</p>
<p>必携書（教科書販売以外）</p> <p><必携書></p> <p>授業で指示</p> <ul style="list-style-type: none"> ○『中学校学習指導要領』，文部科学省 ○『高等学校学習指導要領』，文部科学省 ○『中学校学習指導要領解説総則編』，文部科学省，ぎょうせい ○『中学校学習指導要領解説社会編』，文部科学省，日本文教出版 ○『高等学校学習指導要領解説総則編』，文部科学省，東山書房 ○『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』，文部科学省，教育出版 ○『高等学校学習指導要領解説公民編』，文部科学省，教育出版 <p><参考書等></p> <ul style="list-style-type: none"> ○『中学校学習指導要領解説（平成29年告示）総則編』，文部科学省，東山書房 ○『中学校学習指導要領解説（平成30年告示）社会編』，文部科学省，東洋館出版社 ○『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）総則編』，文部科学省 ○『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）地理歴史編』，文部科学省 ○『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）公民編』，文部科学省 ○その他は、担当者から別途指示する。
<p>オフィスアワー</p> <p>木曜日 5時限</p>
<p>連絡先</p> <p>tmori@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職課程履修生としてふさわしい在り方で受講すること。 ○教員として必要な資質・能力が身に付いているか、現地調査、事例研究、グループ討議等を通して確認する授業であることを自覚すること。

教職実践演習（中・高） [人]				単位数	2単位
授業コード	16271	科目ナンバリング	510Z0-4000-x2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	山本 幾子				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
本授業の概要					
教職課程履修の総括として4年間の学びを踏まえ、教員免許取得までにさらに習得すべき知識や技能等を明確にし、教育者としての愛情と使命感を深め、学校教育において必要とされる教育実践及び教育実践研究の基礎的な能力を身に付ける。そのために、学校現場での学びを含む幅広い内容で授業を構成し、現地調査、事例研究、グループ討議等、演習形式で授業を行う。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	教職課程における学びを振り返り、教員として必要な知識・技能の修得について自己を見つめ、学びの成果と今後の課題を記述することができる。				
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業時の活動状況 (40%)				1
2	課題レポート (30%)				1
3	定期試験 (30%)				1
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
教員として教育実践に携わっていた経験に基づいて、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 演習①「青年教師としての在り方・生き方」(グループ討議) 2 演習②「教育課程の実際とICTの活用」(グループ討議) 3 演習③「生徒指導の理論と実際」(グループ討議) 4 演習④「学校運営と地域連携の在り方」(グループ討議) 5 現地調査①「授業参観」(中学校) 6 現地調査②「授業参観」(高等学校) 7 現地調査③「教育の心」(訪問学校の校長による講話) 8 現地調査④「学校現場の実際」(訪問学校の教員による小グループ討論) 9 演習⑤「これからの若い先生に期待すること」(グループ討議) 10 演習⑥「女性教師としての生き方」(グループ討議)(元中学校長) 11 事例研究①「より良い授業を目指して」(現職教諭) 12 事例研究②「心の教育をいかに実践するか」(現職教諭) 13 模擬授業①(中学校<ロールプレイを含む>) 14 模擬授業②(高等学校<ロールプレイを含む>) 15 4年間の総括					

定期試験
定期試験、教職履修カルテ・課題レポートの提出
試験のフィードバックの方法
教職履修カルテを評価後、返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
<ul style="list-style-type: none"> ・次に予定されているテーマに関して、教職履修カルテや教育実習日誌を活用して自己の考えを整理しておく（約1時間） ・事前の考えと授業内容をもとに、教職の立場から思考を深めまとめておく（約1時間）。 ・教職課程における学びの総括として位置付け、教員として必要な知識・技能が身に付いているか客観的に自己を見つめ、実践的指導力の向上を図ること。
必携書（教科書販売）
使用しない
必携書（教科書販売以外）
<p><必携書></p> <p>『中学校学習指導要領』， 文部科学省 『高等学校学習指導要領』， 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 総則編』， 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』， 文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 総則編』， 文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 家庭編』， 文部科学省</p> <p><参考書等></p> <p>担当者から別途指示する。</p>
オフィスアワー
月～水の昼休み 12：20～12：50。 質問は随時、電子メールで受け付ける。
連絡先
ikuko@m.ndsu.ac.jp もしくは ikuko@post.ndsu.ac.jp
留意事項
<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程履修生としてふさわしい在り方で受講すること。 ・教員として必要な資質・能力が身に付いているか、現地調査、事例研究、グループ討議等を通して確認する授業であることを自覚すること。

教職実践演習（栄養教諭）				【単位数】	2単位
授業コード	16273	科目ナンバリング	510Z0-4000-x2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	若本 ゆかり				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）	1 講義				
本授業の概要					
教職課程履修の総括として4年間の学びをふまえ、教育者としての愛情と使命感を深め、教育免許状取得までにさらに習得すべき知識や技能等を身に付ける。そのために、学校現場での研修を含む幅広い内容で授業を構成し、事例研究、グループ討議等、主に演習形式で授業を行う。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	教職課程における学びをふりかえり、教育者としての愛情と使命感を深め、学びの成果と今後の課題を明確にするとともに、学校教育において必要とされる、教育実践及び教育実践研究の基礎的な能力を身に付ける。				
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業時の活動状況(40%)				1
2	課題レポート(30%)				1
3	定期試験(30%)				1
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
児童生徒の食に関する指導に携わった経験を持つ講師による、児童生徒の食教育の現状と課題並びによりよい授業を行うための講義により、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習①（グループ討議）「栄養教諭としてのあり方」 2. 授業参観（岡山市内小学校・本学附属小学校） 3. 演習②（グループ討議）「食生活調査の方法-食文化・食環境をふまえて-」 4. フィールドワーク「児童の食生活と生活状況に関する調査」 5. 演習③（グループ討議）「児童の食生活と生活状況に関する調査」 6. 講義①「学校給食の意義と給食管理の実際」 7. 講義②「児童生徒の食教育の現状と課題」 8. 講義③「栄養教諭の職務内容とその役割」 9. 事例研究①「よりよい授業をめざして」 10. 事例研究②「栄養教諭に求められる資質」 11. 演習④（ロールプレイング）「食に関する指導における栄養教諭の対応」 12. 模擬授業①（対象：中学年） 13. 模擬授業②（対象：高学年） 14. 演習⑤「食に関する指導の実際とICTの活用」 15. 演習⑥「学校現場で求められる家庭・地域との連携のあり方」 					

<p>定期試験</p> <p>定期試験。教職履修カルテ・課題レポートの提出。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p> <p>教職履修カルテを評価後、返却する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</p> <p>教職課程における学びの総括として位置づけ、教員として必要な知識・技能が身に付いているか客観的に自己を見つめ、実践的指導力の向上を図ること。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p>
<p>必携書（教科書販売以外）</p> <p><必携書></p> <p>『小学校学習指導要領』， 文部科学省</p> <p>『中学校学習指導要領』， 文部科学省</p> <p>『小学校学習指導要領解説 特別活動編』， 文部科学省</p> <p>『中学校学習指導要領解説 特別活動編』， 文部科学省</p> <p>『小学校学習指導要領解説 家庭編』， 文部科学省</p> <p>『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』， 文部科学省</p> <p>『食に関する指導の手引』 第二次改訂版， 文部科学省</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>○オフィスアワーは授業中に指示する。</p> <p>○質問は manaba で随時受け付ける。</p>
<p>連絡先</p> <p>wakamoto@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <p>○教職課程履修生としてふさわしい在り方で受講すること。</p> <p>○教員として必要な資質・能力が身に付いているか現地調査，事例研究，グループ討議等を通して確認する授業であることを自覚すること。</p>

介護等体験の理論				単位数	1単位
授業コード	16280	科目ナンバリング	510Z0-2000-x1	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	山本 幾子				
時間割備考	2期に変則開講				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
<p>特別支援学校や社会福祉施設で行う介護等体験と教師に求められる力量や資質との関係、体験の留意事項について理解することを目的とする。障害等に関する基本的理解を深めるために、特別支援学校や社会福祉施設の現状や課題について考察する。グループワーク、ディスカッション、疑似体験、発表などを通して、体験開始までに解決すべき各自の課題を明確にするとともに、課題解決の具体的方策を様々な視点から検討する。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	介護等体験の意義を理解し、積極的に体験に臨む姿勢を身に付ける。				
2	障害のある児童生徒や社会福祉施設の利用者等の特性を理解し、説明することができる。				
3	ノーマライゼーションやインクルージョンの理念に沿って、障害のある児童生徒や高齢者等のニーズに応じた関わり方を考えることができる。				
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	課題レポート (80%)			1/2/3	
2	筆記試験 (20%)			1/2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
教員として教育実践に携わっていた経験に基づき、教師に求められる資質について様々な事例を提示して指導することにより、教職履修者としての自覚を促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 介護等体験の意義 2 人権意識を高める 3 共感的・受容的人間関係 4 特別支援学校における体験と留意事項 5 社会福祉施設における体験と留意事項 6 車いす介助体験, 交流活動企画体験 7 体験報告から学ぶ 8 筆記試験, まとめ, 諸連絡					

定期試験 課題レポートの提出、筆記試験
試験のフィードバックの方法 授業時やmanabaを活用して解説やコメントをする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ・次回学習予定のテーマに関するテキスト該当部分を読み、自分の考えを整理しておく（約1時間）。 ・講義内容をふり返り、教職履修の立場から各人の課題とその改善策を具体化する（約1時間）。
必携書（教科書販売） <必携書> 『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック 五訂版』, ISBN 978-4-469-26876-8, 現代教師養成研究会編, 大修館書店
必携書（教科書販売以外） <参考書等> 授業時に必要な資料を配付する。
オフィスアワー 月～水の昼休み 12:20～12:50。 質問は随時、電子メールで受け付ける。
連絡先 ikuko@m.ndsu.ac.jp もしくは ikuko@post.ndsu.ac.jp
留意事項 ・「介護等体験の実践」を履修するには、この科目の単位修得が不可欠である。 ・1単位の授業であるため、3回以上欠席すると授業放棄の扱いになる。 ・全授業回数は8回で、初回の授業は9/28に実施予定。その後は変則開講のため、詳細はmanabaで確認すること。

介護等体験の実践				単位数	1単位
授業コード	16290	科目ナンバリング	510Z0-3000-x1	開講年度学期	2022年度第1期、2022年度第2期
担当者氏名	山本 幾子				
時間割備考					
授業形態(主)	3 実験・実習・実技				
授業形態(副)	1 講義				
本授業の概要					
<p>本授業を通して、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めるとともに、ノーマライゼーションの視点から一人一人のありのままの姿を正しく見るという教職としての基本的な姿勢を身に付けることを目的とする。体験後は、グループディスカッションを通して体験を省察し、自己の成長と課題を明らかにする。特別支援学校及び社会福祉施設において、障害者や高齢者等に対する介護、介助、交流等の体験を合計7日間行うとともに、必要な事前指導及び事後指導を行う。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	特別支援学校及び社会福祉施設において合計7日間の体験活動をする。				
2	体験を通して個人の尊厳及び社会連帯の理念の認識を深め説明することができる。				
3	体験で関わる相手に配慮したコミュニケーションを図ることができる。				
4	体験後の成果と課題を明らかにして述べるができる。				
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	介護等の体験記録 (50%)				1/2/3/4
2	課題レポート (50%)				2/3/4
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
教員として教育実践に携わっていた経験に基づき、より具体的な事前事後の指導を行うことで体験の充実を図り、教職としての資質向上を促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護等体験の実践に向けて 2. 介護等体験に向けた手続きの確認 3. 特別支援学校での介護等体験に向けた準備 4. 社会福祉施設での介護等体験に向けた準備 5. 介護等体験に向けた健康管理 6. 特別支援学校における介護等体験 (2日間) 7. 社会福祉施設における介護等体験 (5日間) 8. 介護等体験の省察 					

<p>定期試験 介護等の体験記録・課題レポートの提出</p>
<p>試験のフィードバックの方法 介護等の体験記録を評価後、返却する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 <ul style="list-style-type: none"> ・体験に向けて、日常的に相手に配慮した言葉掛けや行動を意識するとともに、基本的な健康管理を継続実施すること。 ・体験先が決定後は、体験先に関する情報を収集し、事前打ち合わせの内容に沿って綿密な準備をすること（全7時間）。 ・体験記録を丁寧に作成し、学び得たことを蓄積して教育実習に活かせるようにすること（全7時間）。 </p>
<p>必携書（教科書販売） 使用しない</p>
<p>必携書（教科書販売以外） <必携書> <ul style="list-style-type: none"> ・本学作成『介護等の体験記録』（初回授業時に配付） ・「介護等体験の理論」で使用したものを継続使用 ・授業時に別途資料配付 </p>
<p>オフィスアワー 月～水の昼休み 12：20～12：50 質問は随時、電子メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先 ikuko@m.ndsu.ac.jp もしくは ikuko@post.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 <ul style="list-style-type: none"> ・「介護等体験の理論」の単位を修得した者のみ履修登録可能である。 ・全授業回数は8回で、初回の授業は4／13に実施する。その後は変則開講のため、詳細はmanabaで確認すること。 ・年度当初に実施する「介護等体験のオリエンテーション」への出席が不可欠である。 ・義務教育の教員免許取得の条件として7日間の学外体験が必須である。 </p>

中等教育実習事前事後指導 [現]				単位数	1単位
授業コード	16300	科目ナンバリング	510Z0-4000-x1	開講年度学期	2022年度第1期、2022年度第2期
担当者氏名	森 泰三				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。				
2	教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解し、記述することが出来る。				
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への参加姿勢 (20%)				1/2
2	課題レポート (50%)				1/2
3	教育実習日誌 (30%)				2
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
教員として教育実践に携わっていた経験に基づいて、教育実習の意義と目的及び基本的な内容と方法を指導するとともに、教育実習をふりかえった成果と課題を自覚できるように指導する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
《事前指導》					
1 教育実習の目的、教育実習生としての義務と責任、教員としての法令遵守事項					
2 生徒一人一人の良さを認め、やる気を引き出す指導(教科指導及び学級指導)					
3 特別な配慮が必要な生徒との関わり方(教科指導及び学級指導)					
4 学級担任及び教科担任の服務、協働の重要性と教育効果					
5 学校現場の教育課題(ICTの活用等)と対応方法、事務処理とその必要性					
6 教育実習に向けた実践課題の整理と確認					
《事後指導》					
7 教育実習の成果と課題の省察					
8 望ましい教師像と取り組むべき課題の具体化					

<p>定期試験 教育実習日誌・課題レポートの提出</p>
<p>試験のフィードバックの方法 授業中に課題レポートや実習日誌などについてコメントする。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ○教育実習に向けて、教育実習日誌等、必要な準備、心配り、体調管理を十分行うこと。 ○実習校で授業実習をする科目・分野の教科書を熟読し、授業ノートの作成・補充をしておくこと。 予習・復習で3時間</p>
<p>必携書（教科書販売） 使用しない</p>
<p>必携書（教科書販売以外） <必携書> ○『中学校学習指導要領解説社会編』，文部科学省，日本文教出版 ○『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』，文部科学省，教育出版 ○『高等学校学習指導要領解説公民編』，文部科学省，教育出版 ○中学校社会科教科書及び高等学校地理歴史科・公民科教科書 <参考書等> ○『中学校学習指導要領』，文部科学省 ○『高等学校学習指導要領』，文部科学省 ○『中学校学習指導要領解説（平成29年告示）社会編』（平成30年3月），文部科学省 ○その他は、担当者から別途指示する。</p>
<p>オフィスアワー 木曜日 5時限</p>
<p>連絡先 tmori@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 ○教育実習生としてふさわしい在り方で受講すること。 ○教育実習生として自覚の乏しい者、欠席の多い者、成績不良の者は、学外実習に参加することを認めない。 ○講義の時間帯以外に、模擬授業を実施することがある。</p>

中等教育実習Ⅰ [現]				【単位数】	4単位
授業コード	16310	科目ナンバリング	510Z0-4000-x4	開講年度学期	2022年度第1期、2022年度第2期
担当者氏名	森 泰三				
時間割備考	学外実習				
授業形態(主)	3 実験・実習・実技				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>本授業（教育実習）は、中学校または高等学校で3週間実施する。教育実習は、観察、参加、実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	生徒との関わりを通して実態や課題を把握するとともに、指導教員等の実施する授業においては視点を持って観察し、事実即して記録することができる。				
2	教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びに組織体制を理解し、学級担任及び教科担任等の補助的な役割を担うことができる。				
3	生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた適切な学習指導案を作成し、学習指導に必要な基礎的技術を実地に即して身に付けるとともに、ICTを活用して授業を実践することができる。				
4	学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解し、教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わる事ができる。				
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	実習への参加姿勢 (20%)				1/2/3/4
2	学外実習の評価 (50%)				1/2/3/4
3	教育実習日誌 (30%)				1
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
<p>教員として教育実践に携わっていた経験に基づき、教育実習校の指導教員と連携して教育実習を実施し、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。</p>					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<p>○実習校と連携を図り、指導計画に即して実施する。</p> <p>○教育実習は、次のような内容で実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長、教頭、教育実習指導主任、学年主任の講話（学校経営、学年経営、指導組織等） ・生徒指導主事の講話（校務分掌） ・教務主任の講話（校務分掌） ・進路指導主事の講話（校務分掌） ・教科指導の参観（生徒の実態や課題の把握、観察・記録） ・教科指導以外の参観（生徒の実態や課題の把握、観察・記録） ・参加実習（授業及び教科担任の職務の一部を補助的に担当） ・参加実習（学級担任の職務の一部を補助的に担当） ・参加実習（特別活動、学校事務等、教科指導以外の職務の一部を補助的に担当） ・生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた学習指導案の作成 ・授業実習（10～20時間） ・研究授業の実施（学習指導に必要な基礎的技術の習得、ICTの活用） ・授業に関する研究協議 ・教育実習の反省 ・教育実習日誌の作成及び教育実習の整理 <p>○教育実習日誌の提出</p>					

<p>定期試験 実習総時間数120時間以上を以って、単位認定の対象とする。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 教育実習終了後に実習内容について、個別にコメントする。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ○教育実習校の指導教官の指導のもと、生徒の実態と学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、目標達成にふさわしい言語活動や学習活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成すること。 ○授業の実施に当たっては、事前に教育実習校の指導教官に学習指導案を提出し、綿密な準備をすること。 ○教育実習日誌を丁寧に作成し、学び得たことを蓄積すること。 実習中は予習・復習に3時間以上は必要</p>
<p>必携書（教科書販売） 使用しない。</p>
<p>必携書（教科書販売以外） <必携書> ○『中学校学習指導要領』， 文部科学省 ○『高等学校学習指導要領』， 文部科学省 ○『中学校学習指導要領解説社会編』， 文部科学省， 日本文教出版 ○『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』， 文部科学省， 教育出版 ○『高等学校学習指導要領解説公民編』， 文部科学省， 教育出版 ○各実習校が指定した文部科学省検定教科書 <参考書等> ○実習校及び担当者から別途指示する。</p>
<p>オフィスアワー 木曜日 5時限</p>
<p>連絡先 tmori@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 ○教育実習生としてふさわしい在り方で教育実習に臨むこと。 ○教育実習生として自覚の乏しい者、欠席の多い者、成績不良の者は、学外実習に参加することを認めない。 ○自らの責任の重さを自覚し、実習校の教育方針及び教育計画に従うこと。 ○教育実習生としてのマナーを厳守すること。</p>

中等教育実習 I I [現]	【単位数】	2単位
授業コード	16320	科目ナンバリング
	510Z0-4000-x2	開講年度学期
		2022年度第1期、2022年度第2期
担当者氏名	森 泰三	
時間割備考	学外実習	
授業形態(主)	3 実験・実習・実技	
授業形態(副)		
本授業の概要		
<p>本授業（教育実習）は、高等学校で2週間実施する。教育実習は、観察、参加、実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。</p>		
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	生徒との関わりを通して実態や課題を把握するとともに、指導教員等の実施する授業においては視点を持って観察し、事実即して記録することができる。	
2	教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びに組織体制を理解し、学級担任及び教科担任等の補助的な役割を担うことができる。	
3	生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた適切な学習指導案を作成し、学習指導に必要な基礎的技術を実地に即して身に付けるとともに、ICTを活用して授業を実践することができる。	
4	学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解し、教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わる事ができる。	
5		
成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	実習への参加姿勢 (20%)	1/2/3/4
2	学外実習の評価 (50%)	1/2/3/4
3	教育実習日誌 (30%)	1
4		
5		
実務経験のある教員による科目		実務あり
実務経験の授業への活用方法		
<p>教員として教育実践に携わっていた経験に基づき、教育実習校の指導教員と連携して教育実習を実施し、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。</p>		
日本語以外の言語による授業		
授業予定一覧		
<p>○実習校と連携を図り、指導計画に即して実施する。 ○教育実習は、次のような内容で実施する。 ・校長、教頭、教育実習指導主任、学年主任の講話（学校経営、学年経営、指導組織等） ・生徒指導主事の講話（校務分掌） ・教務主任の講話（校務分掌） ・進路指導主事の講話（校務分掌） ・教科指導の参観（生徒の実態や課題の把握、観察・記録） ・教科指導以外の参観（生徒の実態や課題の把握、観察・記録） ・参加実習（授業及び教科担任の職務の一部を補助的に担当） ・参加実習（学級担任の職務の一部を補助的に担当） ・参加実習（特別活動、学校事務等、教科指導以外の職務の一部を補助的に担当） ・生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた学習指導案の作成 ・授業実習（5～15時間） ・研究授業の実施（学習指導に必要な基礎的技術の習得、ICTの活用） ・授業に関する研究協議 ・教育実習の反省 ・教育実習日誌の作成及び教育実習の整理 ○教育実習日誌の提出</p>		

<p>定期試験</p> <p>○実習総時間数60時間以上を以って、単位認定の対象とする。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p> <p>教育実習終了後に、実習内容について個別にコメントする。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</p> <p>○教育実習校の指導教官の指導のもと、生徒の実態と学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、目標達成にふさわしい言語活動や学習活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成すること。</p> <p>○授業の実施に当たっては、事前に教育実習校の指導教官に学習指導案を提出し、綿密な準備をすること。</p> <p>○教育実習日誌を丁寧に作成し、学び得たことを蓄積すること。</p> <p>実習中は予習・復習に3時間以上は必要</p>
<p>必携書（教科書販売）</p> <p>使用しない。</p>
<p>必携書（教科書販売以外）</p> <p><必携書></p> <p>○『高等学校学習指導要領』，文部科学省</p> <p>○『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』，文部科学省，教育出版</p> <p>○『高等学校学習指導要領解説 公民編』，文部科学省，教育出版</p> <p>○各実習校が指定した文部科学省検定教科書</p> <p><参考書等></p> <p>○実習校及び担当者から別途指示する。</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>木曜日 5時限</p>
<p>連絡先</p> <p>tmori@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <p>○教育実習生としてふさわしい在り方で教育実習に臨むこと。</p> <p>○教育実習生として自覚の乏しい者、欠席の多い者、成績不良の者は、学外実習に参加することを認めない。</p> <p>○自らの責任の重さを自覚し、実習校の教育方針及び教育計画に従うこと。</p> <p>○教育実習生としてのマナーを厳守すること。</p>

栄養教育実習事前事後指導				単位数	1単位
授業コード	16350	科目ナンバリング	510Z0-4000-x1	開講年度学期	2022年度第1期、2022年度第2期
担当者氏名	若本 ゆかり				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。				
2	教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解し、記述することができる。				
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	○授業への参加姿勢(20%)				1/2
2	○課題レポート(50%)				1/2
3	○教育実習日誌(30%)				2
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
栄養教諭として児童生徒の食に関する指導に携わった経験を持つ講師による講義並びに指導により、教育実習の意義と目的及び基本的な内容と方法への理解を促すとともに、教育実習をふりかえり成果と課題を自覚できるようにする。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
《事前指導》 1 栄養教育実習の目的、教育実習生としての義務と責任、教員としての法令遵守事項 2 児童生徒一人一人の良さを認め、やる気を引き出す指導(食に関する指導及び学級指導) 3 特別な配慮が必要な児童生徒との関わり方(食に関する指導及び学級指導) 4 学級担任、教科担任、栄養教諭の服務、協働の重要性と教育効果 5 学校現場の教育課題(ICTの活用等)と対応方法、事務処理とその必要性 6 栄養教育実習に向けた実践課題の整理と確認 《事後指導》 7 栄養教育実習の成果と課題の省察 8 望ましい教師像と取り組むべき課題の具体化					

<p>定期試験 教育実習日誌・課題レポートの提出</p>
<p>試験のフィードバックの方法 教育実習日誌・課題レポートを評価後、返却する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 栄養教育実習に向けて、教育実習日誌等、必要な準備、心配り、体調管理を十分行うこと。また食に関する指導の目標を明確にするとともに、学校給食の教育的意義と役割について理解し、これらをふまえた教育指導ができるように準備すること。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p>
<p>必携書（教科書販売以外） <必携書> 『小学校学習指導要領』， 文部科学省 『中学校学習指導要領』， 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』， 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』， 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 家庭編』， 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』， 文部科学省 <参考書等> 『食に関する指導の手引』第二次改訂版， 文部科学省</p>
<p>オフィスアワー ○オフィスアワーは授業中に指示する。 ○質問は manaba で随時受け付ける。</p>
<p>連絡先 wakamoto@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 ○教育実習生としてふさわしい在り方で受講すること。 ○教育実習生として自覚の乏しい者、欠席の多い者、成績不良の者は、学外実習に参加することを認めない。 ○講義の時間帯以外に、模擬授業を実施することがある。</p>

栄養教育実習				単位数	1単位
授業コード	16360	科目ナンバリング	510Z0-4000-x1	開講年度学期	2022年度第1期、2022年度第2期
担当者氏名	若本 ゆかり				
時間割備考	学外実習				
授業形態(主)	3 実験・実習・実技				
授業形態(副)					
本授業の概要					
本実習(栄養教育実習)は、小学校または中学校で1週間実施する。教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	児童生徒との関わりを通して実態や課題を把握するとともに、指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。				
2	教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びに組織体制について理解し、学級担任及び教科担任等の補助的な役割を担うことができる。				
3	児童生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた適切な学習指導案を作成し、学習指導に必要な基礎的技術を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面でICTを活用して食に関する指導を実践することができる。				
4	学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解し、様々な活動の場面で適切に児童生徒と関わる事ができる。				
5	児童生徒および現職の栄養教諭の教育活動に接することにより、学校教育における食に関する指導の有効な機能について考察することができる。				
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	○実習への参加姿勢(20%)				1/2/3/4/5
2	○教育実習評価表による評価(50%)				1/2/3/4/5
3	○教育実習日誌(30%)				1
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
教育実習校の指導教員による実践的な指導により、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
栄養教育実習は、実習校の指導計画に基づき次の計画で行われることが多い。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 校長・教頭・実習指導主任の講話 2. 教務主任の講話 3. 家庭・保健等教科担当教諭の講話 4. 栄養教諭の講話 5. 授業参観 6. 学級活動および給食時間における指導の参観、補助 7. 給食放送指導、配膳指導、後片づけ指導の参観、補助 8. 児童生徒集会、委員会活動、クラブ活動等における指導の参観、補助 9. 学習指導案の作成、教材研究等(食育の視点をふまえた学年別指導案の検討) 10. 学習指導案の作成、教材研究等(板書計画・ICTの活用) 11. 教科・特別活動における研究授業(生きた教材としての学校給食の活用) 12. 教科・特別活動における研究授業(各教科における食に関する指導) 13. 校内における連携・調整の参観、補助 14. 授業に関する批評会 15. 栄養教育実習の反省会 					

<p>定期試験 教育実習日誌の提出</p>
<p>試験のフィードバックの方法 教育実習日誌を評価後、返却する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 対象児童生徒の発達に応じた食に関する指導内容と学習教材に必要な資料を準備する。学習指導案の作成や教材研究にあたっては、年間の授業計画も視野に入れ、他教科との関連についても考慮する。実習内容は、自らが考察する視点で毎日必ず記入してまとめ、翌日の準備と課題につなげてほしい。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p>
<p>必携書（教科書販売以外） <必携書> 『小学校学習指導要領』， 文部科学省 『中学校学習指導要領』， 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』， 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』， 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 家庭編』， 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』， 文部科学省 <参考書等> 『食に関する指導の手引』第二次改訂版， 文部科学省 実習校および担当者から別途指示する。</p>
<p>オフィスアワー ○オフィスアワーは別途指示する。 ○質問は manaba で随時受け付ける。</p>
<p>連絡先 wakamoto@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 ○教育実習生としてふさわしい在り方で教育実習に臨むこと。 ○教育実習生として自覚の乏しい者、欠席の多い者、成績不良の者は、学外実習に参加することを認めない。 ○自らの責任の重さを自覚し、実習校の教育方針を十分理解したうえで教育計画に従うこと。 ○教育実習生としてのマナーを厳守すること。</p>

教職特講 I				単位数	2単位
授業コード	16370	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	吉田 万里子				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
<p>本授業では、将来教職に就くために必要な資質や総合的な人間力を身につけることを目的とする。</p> <p>授業では、青少年期にある生徒の心身の発達を踏まえた学校現場の様々な具体的事例や課題を扱いながら、演習、グループワーク、ディスカッション等を行い、教育実習及び教員採用試験で必要とされる基礎的な力を身につけ準備する。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1 青少年期の心身の発達の特徴を理解し、様々な場面に応じた生徒への支援や指導について説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	2 教育実習を想定した様々な場面での挨拶やミニスピーチ等が発表できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	3 教員採用試験に必要な教職教養全般及び教育法規等の基本的な事項を理解し、説明や記述ができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み態度 20%			1/2/3	
2	課題レポート 30%			1/3	
3	演習及び定期試験 50%			1/2/3	
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
<p>中学校、特別支援学校で教諭及び管理職として、学習指導、生徒指導、学級経営、部活動指導、学校運営・経営等に携った経験を活かして、学校現場での具体的な場面を想定した指導について、人権感覚を重視した視点で考察させ、学生に教育者としての使命感と自覚ある態度、基本的な教育実践力を身につけることができるように促す。</p>					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1 教職特講 I の概要について 2 「教職」の魅力とは 3 思春期の中学生・高校生の理解 (青年期の特徴) 4 思春期の中学生・高校生の理解 (自分探し、レポート) 5 思春期の中学生・高校生の理解 (不適応と問題行動) 6 教育実習に向けて (実習概要) 7 教育実習に向けて (教科指導) 8 教育実習に向けて (生徒指導、ディスカッション) 9 教育実習に向けて (人権教育・特別支援教育) 10 教員採用試験に向けて (試験概要) 11 教員採用試験に向けて (教職教養全般) 12 教員採用試験に向けて (教育法規等) 13 教員採用試験に向けて (個人面接) 14 教員採用試験に向けて (集団面接・集団活動、グループワーク等) 15 教育現場の課題と方向性について (教育時事等) 					

<p>定期試験 16週目に筆記試験を行う。内容は教職教養全般と教育法規等の基本的な事項及び様々な場面指導の方法について。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 試験終了後に模範解答を掲示する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ○毎回の授業で、教育に関する時事問題について説明したり質問したりするので、日頃から新聞やニュース等を把握しておくこと。 ○学校支援ボランティア等に積極的に参加し、児童生徒とふれあったり観察したりする体験を多く持つようにすること。 （予習）次週に予定されているテーマに関連した新聞やニュース等を把握し、自分の感想や意見等を発表できるようにしておくこと。 （約1時間） （復習）配付された資料を見直し、練習問題を解いて確認しておくこと。（約1時間）</p>
<p>必携書（教科書販売） 使用しない。</p>
<p>必携書（教科書販売以外） <参考書等> 学習指導要領（総則編） 高等学校希望者は高校版 中学校希望者は中学版 生徒指導提要 毎回の授業でプリントを配布する</p>
<p>オフィスアワー 質問や相談は、授業終了後及び随時メールで受け付ける。また、教職相談室ポストへ申し込むことでも可能である。</p>
<p>連絡先 ・メールアドレス s8314@m.ndsu.ac.jp ・中等教職相談室301L 直通電話 086-252-4224</p>
<p>留意事項 ○教職相談室及び教職学生閲覧室を積極的に利用すること。 ○事前に予告する準備講座、対策講座に積極的に参加すること。</p>

教職特講 I I				単位数	2単位
授業コード	16380	科目ナンバリング	510Z0-4000-x2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	吉田 万里子				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
<p>本授業では、専門職としての教員に必要な資質を養い、総合的な人間力を高めながら、教育実習及び教員採用試験に必要な基礎的な知識や技能を身につけることを目的とする。</p> <p>授業では、学校現場の様々な具体的事例や課題を扱いながら、演習、グループワーク、ディスカッション等で、受講生同士の学び合いを深め、豊かなコミュニケーション能力を身につけ、教育実習及び教員採用試験に備える。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1 自分の理想とする教師像を明確にもち、説得力のある志願理由及び自分の長所、教師への適性を記述したり発表したりすることができる。			思考・判断・表現力/主体性	
2	2 教育実習を想定した様々な場面での児童生徒への支援や指導について考え、説明したり発表したりすることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	3 教員採用試験に必要な教職教養全般及び教育法規等を理解し、適切な説明や記述ができる。			知識・技能	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み態度	20%		1/2/3	
2	課題レポート	30%		1/2	
3	演習及び定期試験	50%		1/2/3	
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
<p>中学校、特別支援学校で教諭及び管理職として、学習指導、生徒指導、学級経営、部活動指導、学校運営・経営等に携わった経験を活かして、学校現場での具体的な場面を想定した指導について、人権感覚を重視した視点で考察させ、学生に教育者としての使命感と自覚ある態度、基本的な教育実践力を身につけることができるように促す。</p>					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1 教職特講IIの概要について 2 教師の役割(期待される教師像とは) 3 教師の役割(身分と服務) 4 教育実習に向けて(学校組織と校務分掌の理解) 5 教育実習に向けて(教科・科目) 6 教育実習に向けて(人権教育・特別支援教育) 7 教育実習に向けて(生徒指導・部活動) 8 教育実習のまとめ(実習中の課題から学ぶ・ディスカッション) 9 教員採用試験に向けて(教採の概要について) 10 教員採用試験に向けて(志願書・自己推薦書等) 11 教員採用試験に向けて(教職教養全般) 12 教員採用試験に向けて(教育法規等) 13 教員採用試験に向けて(個人面接・集団討論) 14 教員採用試験に向けて(集団活動・グループワーク) 15 教員採用試験に向けて(時事問題) 					

<p>定期試験</p> <p>16週目に筆記試験を行う。内容は、教職教養全般、教育法規等、教育実習、教育時事、様々な場面指導等について。教育実習が終了したら指定する日までにレポートを提出する。内容は、教育実習について。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p> <p>試験終了後に模範解答を掲示する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</p> <p>○毎回授業で教育に関する時事問題について質問したり、感想を求めたりするので、日頃から学生同士で感想や意見交換をしておくこと。 ○学校支援ボランティア等に積極的に参加し、児童生徒とふれあったり、観察したりする体験を多く持つようにすること。 （予習）次週に予定されているテーマに関して、下調べをし、新聞やニュース等を把握し、自分の意見や感想、ミニスピーチ等が発表できるようにしておくこと。（約1時間） （復習）配付された資料を見直し、練習問題を繰り返し解いて、理解を深めておくこと。（約1時間）</p>
<p>必携書（教科書販売）</p> <p>使用しない。</p>
<p>必携書（教科書販売以外）</p> <p><参考書等> 学習指導要領（総則編） 高等学校希望者は高校版 中学校希望者は中学版 生徒指導提要 教育実習で使用する教科書 毎回の授業でプリントを配布する。</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>質問や相談は、授業終了後及び随時メールで受け付ける。また、中等教職相談室のポストへ申し込むことでも可能である。</p>
<p>連絡先</p> <p>・メールアドレス s8314@m.ndsu.ac.jp ・中等教職相談室 301L 直通電話 086-252-4224</p>
<p>留意事項</p> <p>○教職相談室及び教職学生閲覧室を積極的に利用すること。 ○事前に予告する準備講座、対策講座に積極的に参加すること。</p>

教職特講ⅠⅠⅠ				単位数	2単位
授業コード	16390	科目ナンバリング	510Z0-4000-x2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	吉田 万里子				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
<p>本授業では、専門職である教師として総合的な教育実践力及び総合的な人間力を、高め磨いていくことを目的とする。</p> <p>授業では、来年度より学校現場で教職に就くことを想定して、テーマ別の模擬授業や模擬指導を行い、検討し合うことで実践力を養い、学校現場の実態に応じた学習指導力、生徒指導力、コミュニケーション力を身につける。</p> <p>本年度教員採用試験受験者を対象とする。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1 学級便り及び教科便りを作成し、それを用いた学級経営、教科指導に関する模擬授業や模擬指導を行い、検討し合い改善することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	2 生徒理解及び生徒指導、人権等に関する模擬授業や模擬指導を行い、検討し合い、改善することができる。			思考・判断・表現力/主体性	
3	3 危機管理に関する模擬授業や模擬指導を行い、検討し合い改善することができる。			思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み態度 20%			1/2/3	
2	課題レポート 30%			1/2/3	
3	演習 50%			1/2/3	
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
<p>中学校、特別支援学校で教諭及び管理職として、学習指導、生徒指導、学級経営、部活動指導、学校運営・経営等に携わった経験を活かして、学校現場での具体的な場面を想定した指導について、人権感覚を重視した視点で考察させ、学生に教育者としての使命感と自覚ある態度、基本的な教育実践力を身につけることができるように促す。</p>					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1 教職特講Ⅲの概要について 2 現場で求められる教師とは 3 教師の仕事(教育公務員として) 4 教師の仕事(学校組織の理解) 5 教師の仕事(学級経営・学級担任の仕事、学級便り) 6 教師の仕事(教科指導・教科便り) 7 教師の仕事(生徒指導・教育相談、進路指導) 8 教師の仕事(人権教育・特別支援教育・生徒会活動・部活動) 9 模擬授業①(学級指導・ディスカッション) 10 模擬授業②(学級指導・ディスカッション) 11 模擬授業③(教科指導・ディスカッション) 12 模擬授業④(教科指導・ディスカッション) 13 教師の仕事(学校現場の課題と対応、ディスカッション) 14 教師の仕事(学校の危機管理、模擬授業、模擬指導、ディスカッション) 15 まとめ(教師の仕事1年間) 					

<p>定期試験 課題レポートとして、「学級便り」と学級開き指導案、「教科便り」と教科指導案を提出する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 16週目に模擬授業、模擬指導、課題レポート等への助言や講評を行う。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ○教師としての仕事を想定して、授業で使用するワークシートや資料づくり、演習などを行なう。各学科を超えてグループで作業や討論することが多いので、授業時間外での準備や連携・協力をする事。 ○学校支援ボランティア等に積極的に参加し、学校現場で児童生徒とふれあったり、観察したりする体験を多く持つようにすること。 （予習）模擬授業や模擬指導で使用する指導案、ワークシート、資料等を準備する。（約2～3時間） （復習）模擬授業や模擬指導で使った指導案、ワークシート、資料等を見直し、より実践しやすく修正し、学校現場で活用できる資料に改善しておくこと。（約1時間）</p>
<p>必携書（教科書販売） 使用しない。</p>
<p>必携書（教科書販売以外） ＜参考書等＞ 学習指導要領（総則編） 高等学校希望者は高校版 中学校希望者は中学版 教育実習で使った教科書 生徒指導提要 毎回の授業でプリントを配布する。</p>
<p>オフィスアワー 質問や相談は、授業終了後及び随時メールで受け付ける。中等教職相談室のポストへ申し込むことでも可能である。</p>
<p>連絡先 ・メールアドレス s8314@m.ndsu.ac.jp ・中等教職相談室 301Lの直通電話 086-252-4224</p>
<p>留意事項 ○事前に予告する準備講座、対策講座に積極的に参加すること。 ○教職相談室及び教職学生閲覧室を積極的に利用すること。</p>